

張大經極祕第一三三〇號

昭和十九年五月十二日

在張家口大日本帝國大使館事務所長
特命全權公使 岩崎 民男

大東亞大臣 青木 一男 殿

龍烟鐵礦株式會社ニ對スル滿洲重工業
開發株式會社ノ資本參加協定ノ件

及本使立會ノ上調印セル首題本文、附屬諒解事項右協定ニ基ク要員資
材供出ニ關スル申合セ寫別冊ノ通ニ付報告ス
協定本文ニ關シテハ四月上旬電報ヲ以テ報告セル處ナルカ其後梅津大

2917
19.5.19

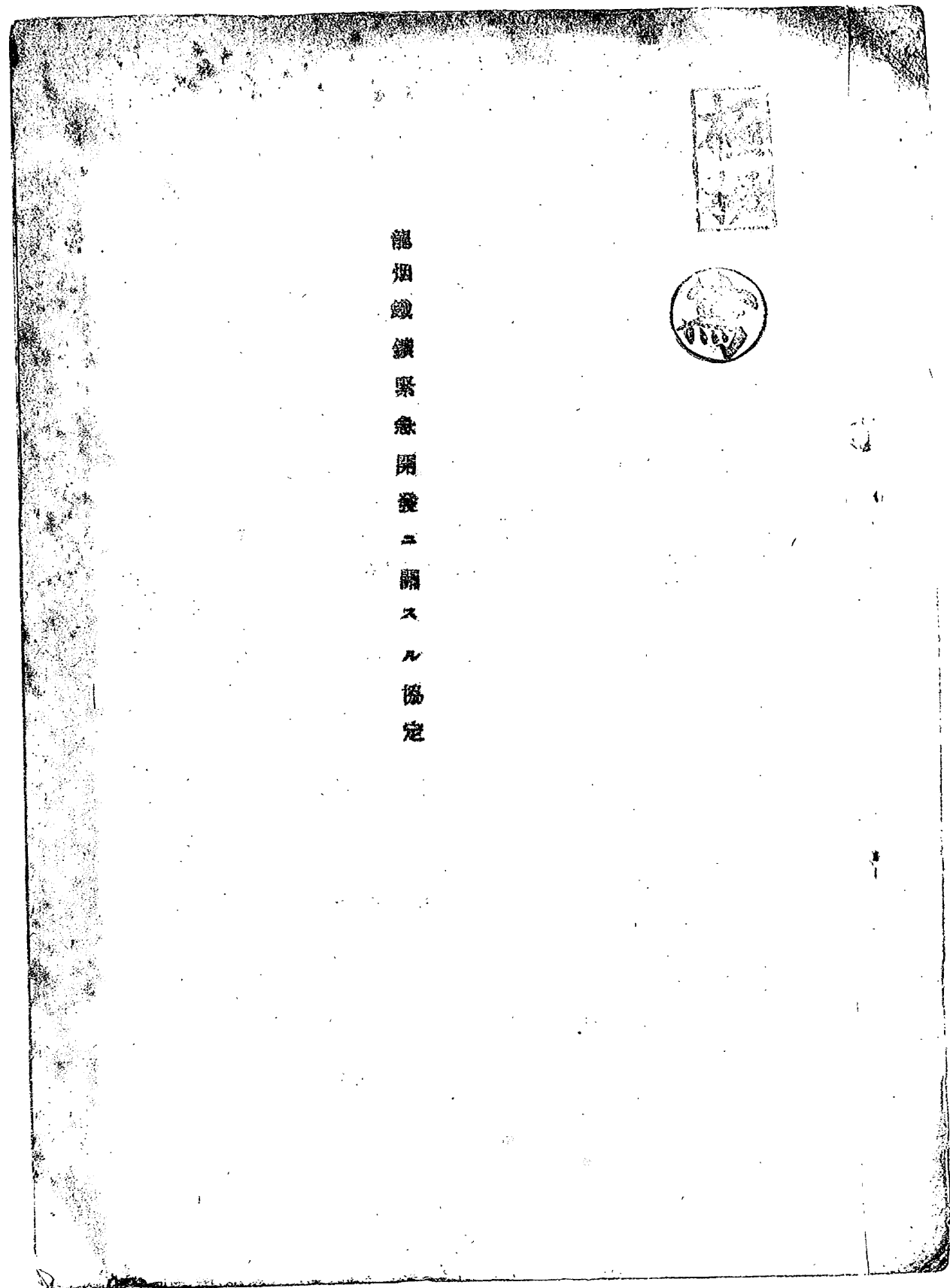
19.5.19

在張家口大日本帝國大使館

在張家口大日本帝國大使館

使宛滿洲國政府竝ニ關東軍ニ對スル折衝電報ノ一部延着セル結果關東
軍ハ其ノ提案セル協定案中調印者ニ對スル當方修正意見ニ從ヒテ修
正ヲ施シタル上中央ノ承認ヲ得タル趣ニテ役員人事及蒙古政府ノ指導
監督權ニ關スル當方修正意見ニツイテハ「全然異存ナキヲ以テ正式調
印ノ際ノ附屬諒解事項トシテ處理致度」旨關東軍池田參謀副長ヨリ本
使宛申入アリタルヲ以テ當地軍及蒙古政府ト協議ノ上役員人事ニ關ス
ル條項ハ滿洲側案文ノ儘トシ蒙古政府ノ指導監督權ニ關スル條項ヲ附
屬諒解事項ト致シタル次第ニ付御諒承相成度
尙要員資材ノ供出ニ關スル申合セハ三月中ニ滿洲側ト原則的ニ意見ノ
一致ヲ見且中央ニ於テモ合電第四二四號ノ次第モアリ概ネ同意ト判斷
セラレシヲ以テ龍家堡七〇万兩中鑛確保ノ見地ヨリ協定調印ニ先テ安
結セシメタルモノニ付諒承相成度申添フ
本信送附先 大臣、在支大使

E-0596



E-0596

0091

時局ノ要請ニ鑑ミ龍烟鐵礦ノ緊急開發ノ爲協定スルコト左ノ如シ
 一、龍烟鐵礦株式會社ノ資本構成ヲ左ノ如ク改ムルコトシ其ノ實行方法
 ハ別途當事者間ニ於テ協定セシムルモノトス
 蒙古聯合自治政府 三分ノ一
 北支那開發株式會社 三分ノ一
 滿洲重工業開發株式會社 三分ノ一
 二、滿洲側ヨリ龍烟鐵礦株式會社ノ開發ニ所要ノ要員及資材ノ供出ニ付協
 カスルモノトシ右要員及資材ハ主トシテ龐家堡ノ開發ニ充當スルモノ
 トス
 三、役員ノ人事ニ付テハ北支那開發株式會社ト滿洲重工業開發株式會社ト
 ノ間ニ協議セシムルモノトス
 四、蒙古聯合自治政府及龍烟鐵礦株式會社理事長ハ滿洲側ノ供出スル要員
 ノ益能力ヲ發揮セシムル如ク現場指導上特ニ留意スルモノトス

成紀七三九年五月十日
康德十一年五月十日
昭和十九年五月十日

蒙古聯合自治政府

國務廳長 武 內 哲 夫

滿洲國國務長官武部六藏代理

經濟部次長 青 木 實

在北京大日本帝國大使館事務所長

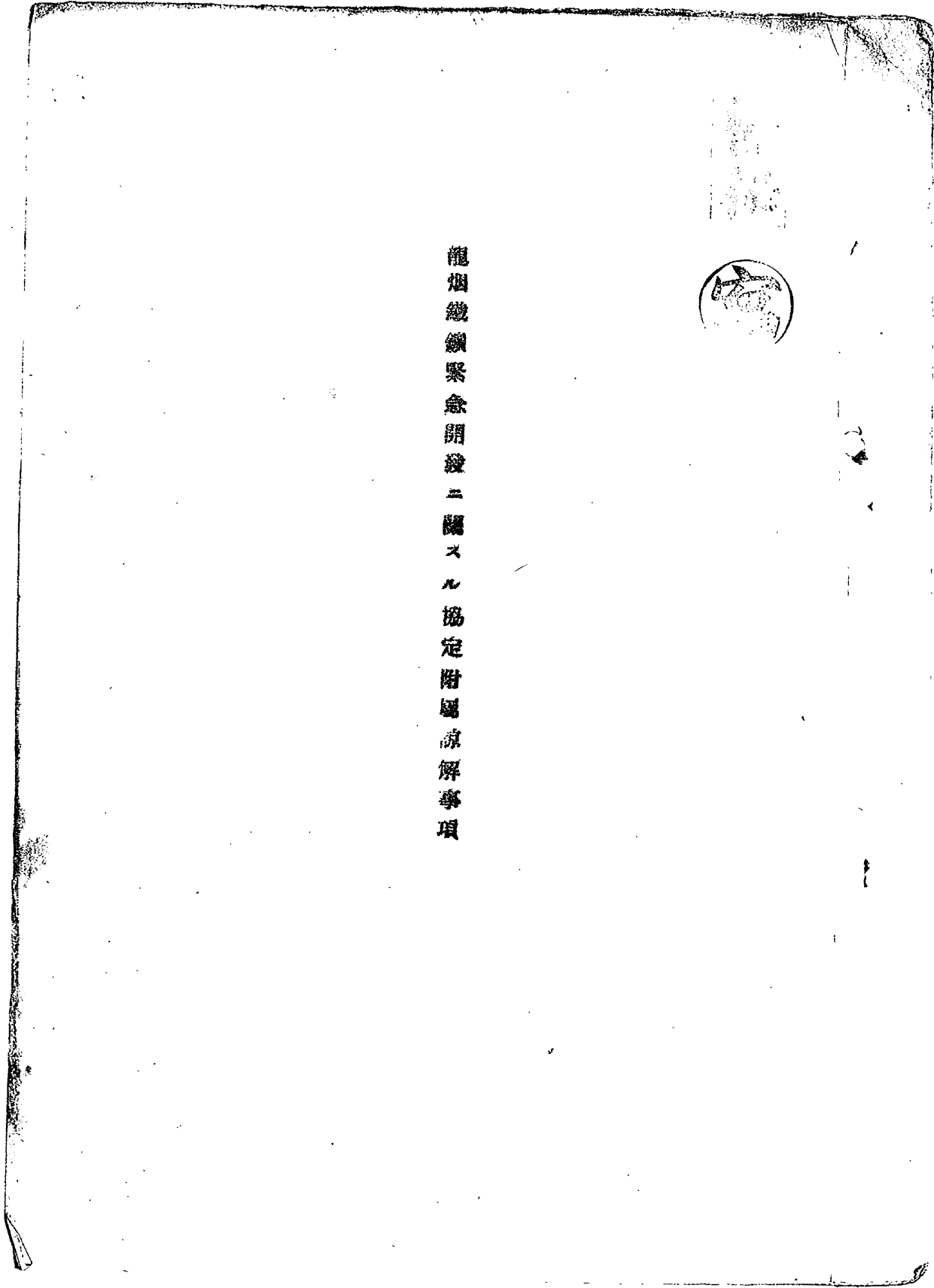
特命全權公使 鹽 澤 清 宜

在張家口大日本帝國大使館事務所長

特命全權公使 岩 崎 民 男

立會者

立會者



龍烟織續緊急開設ニ關スル協定附屬諒解事項

E-0596

0094

龍烟鐵礦緊急開發ニ關スル協定ニ拘ラス龍烟鐵礦株式會社カ蒙疆特種法人
タルニ鑑ミ同會社ニ對シ蒙古聯合自治政府カ現ニ有スル指導監督權ニハ變
更ヲ來タササルモノトス

成紀七三九年五月十日
康德十一年五月十日
昭和十九年五月十日

蒙古聯合自治政府

總務廳長 武 內 哲 夫

滿洲國總務長官武部六藏代理

經濟部長 青 木 實

在北京大日本帝國大使館事務所長

特命全權公使 鹽 澤 清 宣

在張家口大日本帝國大使館事務所長

特命全權公使 岩 崎 民 男

立會者

立會者

龍烟鐵鑛緊急開發ニ關スル細目申合

昭和十九年四月三日
在張家口大使館事務所複製

E-0596



龍烟鐵礦緊急開發ニ關スル細目申合

龍烟鐵礦緊急開發ニ關スル蒙古自治邦政府ト滿洲國政府トノ協定ニ基ク滿洲側ヨリノ要員及資材ノ協力ニ關シ申合ヲ爲スコト左ノ如シ

一、滿洲側ハ昭和十九年度ニ於ケル龍家堡鐵石期待量七拾萬噸ノ確保ヲ目途トシ要員及資材ノ供出ニ付協力スルモノトス

二、龍家堡七拾萬噸出礦對策ハ別添大村嘉久郎氏外二名ノ調査報告ヲ根幹トスルモノトス

三、滿洲重工業開發株式會社ハ大村嘉久郎^氏龍烟鐵礦會社ノ顧問トシテ派遣シ龍家堡採礦所ノ增強ニ協力スルモノトス

四、所要日系要員ニ付テハ別表一ニ依リ滿洲側ニ於テ人選シ龍烟鐵礦會社ト協議ノ上同會社ニ於テ採用スルモノトス

前項要員ノ待遇ニ關シテハ前勤箇所ニ於ケル待遇ヲ基準トシ龍烟鐵礦會社ニ於テ善處スルモノトス

五、滿洲側ヨリ派遣スル要員ト現在從業員トハ渾然一体トナリ其ノ總力ヲ發揮シ得ルカ如ク龍烟鐵礦會社首腦部ニ於テ特ニ配意スルモノトス

六、所要資材及機器ニ付テハ滿洲側ハ別表二ニ依リ數量及運轉開始期日ノ確保ニ努力スルモノトシ滿洲側ニ於テ早急ニ供出明細ヲ確定スルモノトス

七、機器ノ据付、試運轉等ニ必要ナル要員及資材ニ付テモ滿洲側ニ於テ充分ナル協力ヲ爲スモノトス

八、龍家堡宣化間運礦專用鐵道ノ輸送力強化ニ必要ナル改良補修資材ニ付テモ運輸ニ支障ヲ來ササル如ク滿洲側ニ於テ協力ヲ爲スモノトス

九、別表二及三記載以外ノ開發所要資材ニ付テハ別途協議ノ上滿洲側ニ於テ協力スルモノトス

一〇、本申合ニ依ル資材及機器ハ嚮ニ決定セル十九年度滿蒙交易計畫ヨリ除外シ別箇ノ取扱ヲ爲スモノトス

一一、勞力及之ニ要スル食糧宿舍其他ノ物資ノ確保ニ付テハ蒙疆側ニ於テ充足スルモノトス

計
2400H
計1500H

表二

種	類	員	數	所要期(運轉開始期)
空氣壓縮機	三〇〇馬力		三臺	四、五、六月 計1500H
捲揚機	一五〇馬力		一	八月
鑽	三〇		二	九月
鋼管車	五〇		三	四、五、六、八、九月各一臺宛 計1500H
鋼			四二〇	豫備
中空六角鋼			二九七	五月六〇臺、七月三〇〇臺、八月六〇臺 壓縮機ニ附屬スルモノトス
電氣機關車輛			一〇組	四月ヨリ各月五臺宛トス 四〇個(一臺四個)

主ナル所要資材機器一覽表

表一

計	勞務	機械	採鑛	庶務
七六名	一六名	二〇名	三〇名	一〇名

増加ヲ要スヘキ日人要員數

表三

宣化龍家堡間運鐵專用鐵道改良補修資材

枕	分	軌條及 附屬品共	枕	分	軌條及 附屬品共	枕	分	軌條及 附屬品共	枕	分	軌條及 附屬品共	種 類	員 數	使 用 箇 所	
木	器	共	木	器	共	木	器	共	木	器	共	木	器	共	
三六〇〇	六組	挺	二〇〇〇	米		二六〇〇	挺		一八〇〇	米		一四三〇	挺		趙川堡本線強化
															趙川堡側線增設
															白馬驛擴張
															操車場側線二本增設及補修用

枕 分 軌條及
岐 器 附屬品共
木 器 共

七九八〇挺
一七組
三九〇挺 (三七キロ)

康德拾壹年
成紀七三九年
參月參拾日

在張家口大日本帝國大使館事務所
大使館調查官 居 城 基

龍烟鐵礦株式會社
理事 官^長 山 際 滿 壽 一

滿洲帝國政府
經濟部次長 青 木 實

滿洲實業開發株式會社
總裁 高 碕 達 之 助

E-0596

龍烟鐵鑛開發資材供出ニ關スル第一次申合

昭和十九年四月三日
在張家口大使館事務所複製

E-0596

龍烟鐵礦開發資材供出ニ關スル第一次申合

龍烟鐵礦緊急開發ニ關スル細目申合第六項ノ實行ニ關シ申合スルコト
左ノ如シ

申 合 事 項

- 一、滿洲側ハ別表記載ノ資材ヲ直ニ供出ス
- 二、滿洲側ハ國內ヨリ追加供出シ得ル數量ヲ至急決定シ四月十日迄ニ蒙
疆側ニ通告ス
- 三、不足分ハ滿蒙協力シ至急日本政府ニ折衝ノ上四月末日迄ニ日本側ノ
供出シ得ル數量ヲ確定ス

表一

主ナル所要資材、機械

種	類	員	數	備	考
空氣壓縮機	三〇〇馬力		三臺		
捲揚機	三〇馬力		三臺		
鑽	五〇馬力		二臺		
鋼管		四二〇	臺		
中空氣	六角	一〇〇	應		
電氣機關車輛		一五	應		
鉛		一〇	組		
		二〇	應		

表二 宣化—龐家堡間運鑛專用鐵道改良補修資材

種類	員數	使用箇所
分岐器	六組	趙川堡本線強化
枕木	三五〇挺	
分岐器	一組	趙川堡側線増設
軌條及附屬品共	九〇〇米	
枕木	一、四三〇挺	
分岐器	四組	白廟驛擴張
軌條及附屬品共	一、八〇〇米	
枕木	二、六〇〇挺	
軌條及附屬品共	二、〇〇〇米	
分岐器	六組	操車場、側線二本増設及補修用
枕木	三、六〇〇挺	

總計

軌條及附屬品共 三九〇 甍 (三七キロ)
 分岐器 一七組
 枕木 七九八〇 挺

康德拾壹年
成紀七三九年
參月參拾日

在張家口大日本帝國大使館事務所
大使館調査官 居 城 基

龍烟鐵礦株式會社
理事 長 山 際 滿 壽 一

滿洲帝國政府
經濟部次長 青 木 實

滿洲重工業開發株式會社
總 裁 高 碕 達 之 助

昭和十九年四月三日

在張口家大使館事務所 複製

興亞院 庶務課 連絡部

康德十一年三月二十日

龐家堡鐵山十九年度七十萬噸出鑛對策調查報告

滿洲重工業開發株式會社
 大村嘉久郎
 株式會社本溪湖煤鐵公司
 山口清治
 株式會社昭和製鋼所
 小數賀淳

E-0596

興亞院 課 覆 連 絡 部

目 次

一、調 査 目 的	① 採 鑛 用
二、調 査 時 日	② 山 卸 シ 用
三、結 論	(二) 電 車
四、出 鑛 計 畫	八、ボ ン プ 其 ノ 他
五、空 氣 壓 縮 機 所 要 馬 力 數	① ボ ン プ
六、運 搬 並 輸 送 計 畫	② 其 ノ 他
七、所 要 運 搬 設 備	九、現 地 各 機 器 増 設 並 ニ 入 荷 見 込
八、山 卸 シ 設 備	(イ) 空 氣 壓 縮 機
① 索 道	(ロ) 卷 機
② 卷 卸	(ハ) 鑛 車
(ロ) 卷 揚 機	(ニ) エ ヤ ー バ イ プ
(ハ) 鑛 車	(ホ) 鑿 材
	(ニ) 修 理 工 場
	十、勞 務 者 所 要 數

(委 託 口 局 印 納)

E-0596



興亞院蒙藏連絡部

- (イ) 鑛 夫
- (ロ) 機械、電氣、木工等
- 十一、工 人 宿 舎
- 十二、日 本 人 監 督 者 所 要 數
- 十三、結 論
- 十四、備 考

蒙藏圖表

E-0596



一、調査目的

明年度龐家堡七十萬噸出鑛確保ニ要スル
對策調査

二、調査日時

自康徳十一年三月十四日 至康徳十一年三月廿日

三、緒論

明年度龐家堡七十萬噸出鑛確保ハ現況ニ於テハ極メテ困難ナリ。是レ當山ガ開發後日尙淺ク採鑛準備作業未ダ整ハザルニ過重ナル出鑛ヲナン徒ラニ機器ノ損傷、計畫ノ齟齬ヲ來タシ僅カニ開坑三年ニシテ一二八〇米地竝以上(電車、運搬地竝)ノ採鑛漸ク終了シ今ヤ採鑛ノ重點下部ニ移行ヲ要スル時期ニ到達セルモ採掘準備坑道ノ掘進遅レ明年度出鑛ニ要スル坑道掘鑿ノ大部ハ當該年度ニ於テ爲サザル可カラザル状態ニアリ斯カル狀況下ニ於テ急激ナル飛躍的増産ハ技術的ニ見テ到底望ミ得ザル處ニシテ本年度実績二二萬余噸ヨリ一舉ニ之レヲ七〇萬噸出鑛ト爲サントスルハ實ニ三〇〇%以上ノ増産ナリ

即チ是カ完遂ニハ即時超非常手段方法ヲ採ラザル可カラザルハ^自齒明ノ理ニテ山元ニ於テハ或ハ露天掘ヲ最大限度ニ行ヒ、或ハ從來願ミラレザル採掘跡殘柱引等ヲ實施スルコトニヨリ極力準備ノ遅延ニヨル出鑛減ヲ補フハ勿論、一方次表ニ示ス如ク空氣壓縮機竝ビニ卷揚機ノ設置ヲ急ガザル可カラザル現況ナリ。

第一表 機器据付計畫表

月別	空氣壓縮機	捲	機
四	三ヶ月間ニ	五〇馬力×一台	二五〇馬力×一台 三〇馬力×二台
五	三〇〇馬力×三台	五〇馬力×二台	一五〇馬力×一台 三〇馬力×三台
六		五〇馬力×一台	二五〇馬力×一台
七	三〇〇馬力×二台	五〇馬力×一台	三〇〇馬力×一台
八	三〇〇馬力×二台		三〇〇馬力×一台
九	三〇〇馬力×一台	五〇馬力×一台	一五〇馬力×一台
一〇		一五〇馬力×二台	
一一		一五〇馬力×一台	

四出 鑛 計 畫

明年度七〇萬噸出鑛ハ前述ノ如ク極メテ困難ナルハ明ナルモ亦

決シテ不可能ナリト放棄スベキモノニ非ズ、即チ第一表ニ示セル如ク機器据付ヲナスコトニ依リ第二表ニ示ス出鑛ヲ豫定シ得ルモノナリ

卷機關係ニ於テハ不取敢一時小卷ニシテ間ニ合ハセ得ルモ壓縮機ニ於テハ即時滿洲ヨリ融通スルヲ要スベシ。且山元工作關係手簿ナルヲ以テ斯ク多數ノ機器ヲ短期間ニ据付ケハ到底見込ミ無ケレバ是ガ据付ニ對シテモ特別ノ援助促進方ヲ講ズベキナリ

第二表 月別出鑛計畫表

月別	作業日數	日産應數	月産應數
四月	二八日	一〇〇〇應	二八〇〇〇應
五	二九	一〇〇〇	二九〇〇〇
六	二八	一〇〇〇	二八〇〇〇
七	二九	一六〇〇	四六〇〇〇
八	二九	二〇〇〇	五八〇〇〇
九	二八	二四〇〇	六七〇〇〇
上期計	一七一		二五六〇〇〇
一〇	二九	二六〇〇	七五〇〇〇
一一	二八	二六〇〇	七三〇〇〇
一二	二九	二六〇〇	七五〇〇〇
一	二九	二六〇〇	七五〇〇〇
下期計	一七一		四四四〇〇〇
合計	三四二		七〇〇〇〇〇

五、空氣壓縮機所要馬力數
 實績ニ於テハ出鑛一應當リ設備馬力數ハ三二五馬力ニシテ運轉馬力數ハ一五馬力ナリ。依テ即時補修設備ヲ增強スルト共ニ豫備品ノ整備ヲナシ出鑛一應當リ設備馬力數ヲ一五馬力トスルヲ要ス。然ラズシテ徒ラニ設備馬力ノミヲ増スモ運轉馬力ノ増加トナラズ出鑛増加ハ期シ得ザルモノトス

(表裏口墨印)

興亞院蒙蒙連絡部

第三表 月別空氣壓縮機所要馬力數

月別	所要馬力	設備台數		備考
		300馬力	500馬力	
一	"	"	"	外300馬力ロータリ スアルモ運轉見込ナク除外 増設機ハ絕對ニ豫定期間ニ 据付完了ヲ要ス
二	"	"	"	
三	"	"	"	
四	一、五五〇	二	一	
五	"	"	"	
六	"	"	"	
七	二、四五〇	五	二	
八	三、〇五〇	七	二	
九	三、六五〇	九	二	
一〇	三、九五〇	一〇	"	
一一	"	"	"	
一二	"	"	"	
三	三、九五〇	一〇	七	

六、運搬並輸送計畫

山元運搬設備モ亦當所出鑛ノ隘路ヲナスモノニシテ現有架空索道ヲ極力有效ニ使用スル外目下工事中ノ三〇〇馬力巻ノ完成ヲ急グ必要アリ
 尙鐵道延長工事開通時期ハ六月上旬ト見テ、其ノ山元發送最大能力ハ第四表ニ示スガ如シ

最家口是印也

E-0596

第四表 月別發送計畫並山元貯鐵量

月別	出	發	貯			出	積
			前期繰越シ	受	拂		
四	二八〇〇〇	二四〇〇〇	二〇〇〇〇	四〇〇〇		二四〇〇〇	二四〇〇〇
五	二九〇〇〇	一三〇〇〇		一六〇〇〇		二三〇〇〇	四〇〇〇〇
六	二八〇〇〇	五一〇〇〇			二三〇〇〇	一七〇〇〇	一七〇〇〇
七	四六〇〇〇	五八〇〇〇			一一〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇
八	五八〇〇〇	五八〇〇〇			五〇〇〇		五〇〇〇
九	六七〇〇〇	七二〇〇〇			五〇〇〇		
上期計	二五六〇〇〇	二七六〇〇〇					
一〇	七五〇〇〇	五八〇〇〇		一七〇〇〇		五〇〇〇	一七〇〇〇
一一	七三〇〇〇	七三〇〇〇				五〇〇〇	一一〇〇〇
一二	七五〇〇〇	八一〇〇〇			六〇〇〇		六〇〇〇
合計	七〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇					一八〇〇〇
下期計	四四四〇〇〇	四二六〇〇〇					一八〇〇〇
三	七八〇〇〇	六〇〇〇〇		二八〇〇〇			一八〇〇〇
二	六八〇〇〇	六八〇〇〇				〇	〇
一	七五〇〇〇	八一〇〇〇			六〇〇〇		〇

セ所要運搬設備
 (1) 山卸シ設備
 ① 索 道
 公稱五〇万屯ナルモ實能力ハ「ロープ」取替、其ノ他ノ事由ニ依リ三三万屯トス
 ② 卷 卸
 本計畫ニ於テハ「エンドレス」設置ノ豫定ナルモ「エンドレス」巻入手見込ナキタメ三〇〇五巻ヲ代用スルモノニシテ巻自体ノ能力一日一〇〇〇屯ヲ處理シ得ルモ上部鐵車付替「レ

(昭和四〇年印刷)

興亞院蒙運部

ベルノヲ現状ノ儘ニテハ面白カラズ盈空車線ニ高低ヲ付シ
 空車ハ自動的ニ貯鑽槽積込場所ニ流シテ行ク様模樣替ヲ要
 ス
 尙又卷二合ヲ平行ニ設置スル計畫ナルモ兩者ガ互ニ制肘ヲ
 受ケザル様特別ノ工夫ヲ要ス

第五表 月別山卸運搬能力

月別	索道	一號捲	二號捲	合計	備考
四	(110) 114000			114000	ロープ取替 十日間
五	(111) 113000	(218) 17000		130000	二十日間
六	(218) 34000	(219) 17000		51000	
七	(219) 35000	(219) 17000		52000	
八	(219) 35000	(219) 17000		52000	
九	(218) 34000	(218) 17000	(218) 17000	78000	
上期計	175000 (110) 110000 (218) 34000 (219) 35000	85000 (219) 113000 (218) 11000 (219) 113000	17000 (219) 11000 (218) 11000 (219) 113000	277000 (219) 230000 (218) 11000 (219) 230000	ロープ取替 二十日間
10	(218) 34000	(218) 17000	(218) 17000	68000	
11	(219) 35000	(219) 17000	(219) 17000	69000	
12	(219) 35000	(219) 17000	(219) 17000	69000	
1	(216) 31000	(216) 17000	(216) 17000	65000	
2	(217) 31000	(217) 17000	(217) 17000	65000	
3	(217) 31000	(217) 17000	(217) 17000	65000	
下期計	159000	136000	136000	431000	
合計	334000	221000	153000	708000	

(一) ハ作業日數ヲ示ス

(築業日星印納)

(四) 卷揚機
 卸掘進用卷揚機ハ即時設備ヲ要スルヲ以テ一時小型巻ニテ間
 ニ合セ掘進ノ進捗ニ伴ヒ漸次大型巻ト取替ヲ要ス

興亞院蒙運連絡部

種別	所	掘進		運搬		備考
		馬力	完成日	馬力	完成日	
東三六〇番斜坑	東二八〇	五〇馬力	四月	一五〇馬力	九月	(一)セルハ不用ナレバ掘替フルモ
東二二〇	東二二〇	五〇馬力	六月	"	十月	
黃龍本卸	東七〇	(三〇馬力)	(既設)	三〇〇	既設	
番斜坑	西六〇	五〇馬力	七月	"	既設	
蒼龍本卸	西一〇〇	三〇	既設	一五〇	五月	
西一九〇番斜坑	西二八〇	一〇馬力	既設	一五〇馬力	六月	
紅龍本卸	西四〇〇番斜設	三〇	既設	三〇〇	三月	
中間索道	山卸卷	五〇	五月	一五〇	十一月	
杭料卷	杭料卷	三〇馬力五台	四月-五月	三〇〇	八月	
種別	所	既設	在倉	不足	豫備	備考
一〇馬力	一	一	四	四	二	在庫煙筒山
三〇	二	三	三	四	二	向中
二五〇	一	一	三	四	二	五馬力
一五〇	八	一	三	四	二	三馬力
五〇	六	三	四	四	二	五馬力
三〇〇	四	二	二	二	二	ノトス

(註) 杭料卷

E-0596

① 鑛 車

① 採 鑛 用

平均函通りヲ四回トシ使用率ヲ八〇%トス

月別	一日最高出鑛	所要數	故障	計
四一七	一、六〇〇 吨	四〇〇 台	二〇〇 台	五〇〇 台
八一三	二、六〇〇	六四〇	一六〇	八〇〇

現在數ハ五〇〇台ナルヲ以テ七月末迄ニ三〇〇台ノ増加ヲ要ス。但シ現設計ニテハ之レヲ卷卸シニ使用不可能ナルニ付キ採掘個所深部ニ進メバ設計ノ變更ヲ要スベシ

② 山 卸 用

山卸用鑛車ハ採鑛用流用不可ナルヲ以テ至急製作ヲ要ス

五月末迄 六〇台
 八月末迄 六〇台
 計 一二〇台

② 電 車

現在五台アリ三台故障運休シアリ。即時補修シ常時四台運轉可能ナル様豫備品ヲ準備シ置クヲ要ス

ハポンプ其ノ他

① ポ ン プ

從來採掘ハ主トシテ電車運搬地並以上ヲ採掘シ卸掘進尠ク從テ湧水ニ對スル考慮ヲ要セザリシモ今后下部ニ向ヒ卸掘進ヲナス状態トナリ「ポンプ」ノ準備ヲ要ス。即チ各卸ニ夫々一台外ニ豫備「ポンプ」ヲ設置スルモノトシテ「一〇」三〇馬力「ポンプ」二〇台ヲ必要トス

② 其ノ他

空氣壓縮機卷等ノ増設ニ伴ヒ必然的ニ増加ヲ要スル「パイプ」等ニ就テモ相當量ノ準備ヲナスヲ要ス

(監査口星印納)

九現地各機器増設並人荷見込
 (一) 空氣壓縮機

現地ニ於ケル明年度増加計畫ハ龐家堡二三〇〇馬力、烟筒山
 一八〇〇馬力ニシテ龐家堡ノ増設工程ハ

五月	六月	七月	十一月	十二月	一月	計
六〇〇馬力	一〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇〇	二、三〇〇〇

ニ對シ註文狀況左記ノ如シ
 (現地据付運轉ハ工場完成ヨリ三ヶ月トス)

機 種	台 數	製 作 完 了 期 限	備 考
三〇〇馬力ロータリー	二台	一月	製作完了シ
五〇〇〇	一	二月	三月末積出
五〇〇〇	一	三月	豫定
五〇〇〇	二	六月	二月モ全シ
五〇〇〇	一	八月	
五〇〇〇	一	九月	
一〇〇〇	六	五月	

中一〇〇馬力二台ハ製鐵工場用

(並家口星印約)

興亞院蒙疆連絡部

(四) 捲

種別	台數
三〇〇馬力シングル	二台
ダブル	一台
三〇馬力シングル	五台
五〇	五台
三〇	一〇台
一〇	一〇台

(イ) 鑽車
 鑽車ハ車輪ヲ除キ全部現地製作ニシテ現在四〇〇台分完了セリ。
 尙車輪ニ於テハ日立製四一七台分天津ニ到着シ居リ、又北京岩井産業註文一一五〇台モ近ク完成ノ豫定ノ外ニ内地註文製鐵引當四八〇台分ノ内二五〇台六月完成ノ見込ナリ

(ウ) エヤーパイプ

種別	全部所要量	龐家堡所要量	在倉庫
六一—二	二五〇	一七六	
四—五	一四六	六三	
三—以下	一三五	五八	
合計	五三一	二九七	一一一

註 全所要量ハ龍烟全体ノ所要量トス
 以上ニ對シ現在人荷見込ナシ
 (ウ) 鑿材
 S—四九鑿岩機用鑿材年間所要見込六二噸ニ對シ在庫二、五噸ニ過ギズ是レニ對スル人荷見込不明ナリ

(蒙案口原印納)

修理工場

山元修理設備ハ六吋旋盤一台、一〇吋ボール盤一台ニ過ギズ
 又宣化修理工場ニ於テモ旋盤一四台（内四台技術工不足ニテ
 運休）ボール盤三台（内一台古品ニテ殆ンド使用ニ堪エズ）
 アルノミニテ鑄物工場ハ目下増設中製罐ハ相當能力ヲ有スル
 如キモ何レモ製鐵工場建設以來鑛山關係機器ノ補修ニ全々手
 ヲ伸パン得ザル状態ナリ
 是ニ對シ工作工場ノ大擴張ノ計畫ヲ樹テ目下工作機器ノ大量
 入手ニ奔走中ナルモ果シテ如何ナル程度所期目的ヲ達シ得ル
 ヤ誠ニ疑問ナリ
 即チ本修理工場ハ鑛山機器修理工場トシテ建設セラレシモノ
 ナレバ速カニ當初計畫ニ基キ鑛山機器ノ補修ニ使用スベキ
 モノニシテ然ラザレバ鑛山機器ハ全滅ノ止ムナキニ至ルベシ
 十、勞務者所要數

全鑛夫稼働人員一人當出鑛ヲ〇、四五（十八年實績）稼働計七
 %トス

月別	出鑛（日）	稼働	在籍	備考
四	1,000 屯	2,200 人	3,200 人	在籍人員一五% ハ鑛山技術工タルヲ 要ス
五	"	"	"	
六	"	"	"	
七	1,600	3,600	5,100	
八	2,000	4,500	6,400	
九	2,400	5,300	7,600	
十	2,600	5,800	8,300	
十一	"	"	"	
十二	"	"	"	
三	"	"	"	

（昭和五年印刷）

尙露頭區域露天採掘相當量ノ剝土ヲ要スルモ是ハ一時的作業ナ
ルヲ以テ社外ノ一括請負ヲ利用スルヲ得策トスルヲ以テ除外セ
リ

(ロ) 機械、電氣、木工

空氣壓縮機、卷揚機据付ニ對シ一時應援セシムル外是等機器
並ニ電車補修點檢技術工ヲ急速ニ充足スルヲ要ス

十一、工人宿舍

上記所要人員ヲ收容スルニ要スル宿舍ハ左ノ如シ

④ 鑛夫宿舍

家	族	獨	身	現	在	增	設	計
				三四五戸		四〇〇戸	七四五戸	
				四八〇〇人		二八〇〇人	七六〇〇人	

⑤ 技術工宿舍

家	族	獨	身	現	在	增	設	計
				一六八戸		三三八戸	三〇六戸	
				四七八人		三〇〇	七七五人	

十二、日本人監督者所要數

日人従事員所要概數ハ左ノ如シ

庶務	探鑛	機械	勞務	合計	右記増員ヲ收容スル日人宿舍ヲ即時増設ヲ要スベシ
一六	五七	二〇	一四	一〇七	
二〇	三〇	二〇	一六	七六	
二六	八七	四〇	三〇	一八三	
計					

(製表口部附)

十三 結 論

① 以上各項ニ於テ述ベタル如ク本計畫ハ全ク餘裕ナク極メテ窮屈ナルモ各機器ノ据付期限ハ最大限度ニ延シアルモノナレバ是レ以上聊カノ遅延モ許サレザルモノニシテ機器ノ手配ノミナラズ、是ガ輸送、据付ニ關シ相當考慮ヲ要ス

② 出鑛、輸送計畫表ニ見ル如ク年度始ノ出鑛ニ比シ下期ハ二六〇%ノ出鑛ヲ爲サザル可カラズ斯ク急激ノ増産ハ露頭部採掘時期ニ於テハ容易ナランモ採鑛切羽漸ク下部ニ進ミ卷揚機及「ポンプ」ナクシテ切羽準備出來得ザル状態ニアリテハ相當ノ豫備切羽ヲ必要トスルニモ拘ラズ全ク餘裕ナキ状態ナレバ本豫定遂行ハ相當ノ困難性アリ
次ニ輸送豫定ニ於テモ設備ノ關係上時期的ニ非常ナル變動アリ、或ル月ハ出鑛ノ半ヲ貯鑛シ或ル月ハ全貯鑛ノ拂出ヲナスガ如キ妙カラザル無理ヲ發送ヲ爲スヲ要ス

③ 年度始ニ於ケル鑛夫所要數三、一〇〇人ハ問題ナキモ夏期ノ夏枯レ時期ニ於テ急激ニ増加シ九、十月ニ於テ八、三〇〇人ヲ收容スルヲ要ス。是レ亦常套手段ニテハ不可ナレバ特別ナル手當ヲ要ス
且是等工人ヲ收容スベキ宿舍ハ一時「アンペラ」小屋ノ如キニテモ可ナルモ冬期前ニ完成ヲ要ス

④ 諸機器ノ運轉率良カラザルハ補修點檢ノ人員不足ナルト優良ナル技術工勢キニ依ルハ勿論ナルモ修理工場設備不完ナルニ基クモノニシテ簡單ナル補修品モ遠ク宣化又ハ天津迄持テ行クガ如キ状態ニテハ能率ノ向上ハ期シ難シ。
速カニ修理工場設備ノ充實ヲ要ス。是レヲ要スルニ現下ノ狀勢ハ不可能ヲ可能ニセヨトノ至上命令下ニアルノ時期ナレバ如何ナル業務ニ從事シ居ルモノモ此ノ信條ヲ旨トシテ舉國一致戦力増強ニ邁進スベキハ言ヲ俟タズ。然レドモ鑛山ノ開發

(蒙藏口呈印)

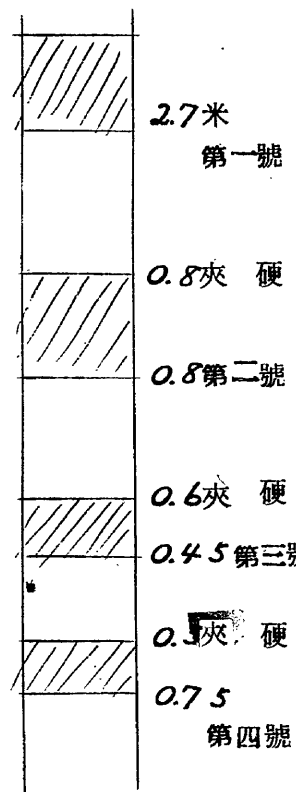
ハ他ノ業務ト異リ必要ナル開發準備ナクシテハ到底所期ノ目
的ヲ達成シ得ルモノニアラズ
龐家堡十九年度出鑛豫定目標七〇萬屯ハ技術的常識ヨリ考ヘ
レバ之ヲ受諾シ得ル數ヲ遙カニ超過シタルモノト認ム
何トナレバ以上各項目ニ涉リテ述ベタル如ク例ヲ空氣壓縮機
ニ取ルモ上半期內ニ於テ三〇〇馬力ノモノ八台ノ増設ノ要ア
リ、且ツ其ノ完成時期モ之レヲ一日遲延スルトキ之ヲ回復ス
ルノ見込ナキ状態ニシテ斯カルコト滿洲國內ノ豫備機器內ヨ
リ到底融通シ得ザル可ク假令滿洲國內ノ產出量ヲ減スルノ虞
アル迄ニ之レヲ強行スルト假定スルモ時期的ニ多少ノ遲延ハ
免レザル可シ。然ラバ超非常時局ナルコトヲ充分ニ加味シタ
ル上ニテ各種條件ヲ勘考シ實現可能數ヲ考フレバ上期一五萬
下期三五萬合計五〇萬屯程度ナル可シ。之レヲ滿洲國內ノ大
栗子溝、廟兒溝各鐵山ト比較スルモ鑛床並ニ設備狀況ヨリ見

テ妥當ナル可シ。然レドモ之レヲ初メヨリ五〇萬屯ノ目標ニ
テ進ノバ其ノ實現ハ不可能ニテ、アク迄七〇萬屯目標ニテ進
ミテ各種ノ施設ヲナシ實現シ得ルモノナリ

④ 備考

明年度出鑛ニ直接關係ナキモ一〇六三米鐵道終點ヨリ立入坑
道一、二〇〇米金銀坑坑口位置及三八號附近ヨリ立入ノ掘進ノ
即時着手ヲ要ス

⑤ 龐家堡鑛石ハ四層アリ左圖ニ示ス如シ



(龐家堡鑛石)

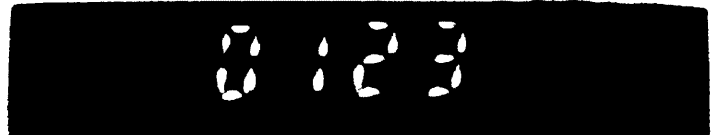
現在採掘シ居ルハ第一號ノミニシテ此ノ備デ年度七〇萬屯ヲ
 出鑛シテ行クモノトスレバ毎年垂直二六、八米（斜巨離五三、五
 米）ツツ又一〇〇萬屯トスレバ毎年垂直三八、二米（斜巨離
 七六、五米）ツツ下ニ進ムコトニナル
 即チ此ノ割合ヲ以テ進ムトスレバ一、〇六〇米（鐵道終點）迄
 七〇萬屯ノ場合八年一〇〇萬屯ノ場合六年ニテ到達スル理デ
 アル。若シ又五〇萬屯トスレバ十二年ヲ要スルコトナル
 然ラバ毎年二、四〇〇米ヲ間七〇萬屯デ斜巨離二七米一〇〇萬
 萬應デ七七米進ミ得ルヤ否ヤ相當疑問アリ。從テ至急的ニ東
 西未着平地區ノ開發ヲ圖ルカ、又ハ二號又ハ四號全部ノ採掘
 方法ヲ講スルヲ要ス。然レド夾硬ノ混入ニヨリ烟筒山ト同様
 品位ノ低下ヲ免レザルモノニシテ撰鑛法並是ガ設置ヲ待ツテ
 行フベキデアリ。

(製本口原印)

總番第 12 號		局主 長管	
昭和 19 年 4 月 12 日 前 1 時 30 分發		電信課長	
件名	轉電先	宛	課主 長管
龍烟鉄鑛對滿洲重工業出資ノ件	支北京上海	張家口公使	商工課長
		第一七九號	殖産課長
記録件名		發	昭 和 19 年 4 月 12 日 起 案
		大臣	

規格—B5(東京 3.195)

E-0596



中貴電第ニ五九号ニ関シ
貴見通り取運ヒ差支ナシ
支、北京、上海ニ轉電セリ

山田

規格-B5 (東東 3.105)

E-0596



極秘

主筆 文書

大東亞省

陸軍部 五五九五一「陸」 張家口 四月十日 一四二〇發

本署 十月一八三〇發

青木大丞 西木臣

岩崎公使

二五九陸

(龍烟鐵礦ニ對スル滿洲製鐵會社出資ニ關スル件)

龍烟鐵礦ニ對スル資本參加ニ關シ滿洲ヨリ次々如キ要旨ヲ協定締

結方提案アリ

(1) 滿洲側出社ヲ滿洲重工業トス(其、他出社及出資額等ハ費電合算

三〇九號ニ同シ)

(2) 滿洲側ハ龍烟鐵礦ノ開發ニ所費ノ要及資材ノ供出ニ協力スル



(文書-15 東京 1209)

電信寫

秘

電信寫

大東亞省

コト但シ右要員及器材ハ主トシテ龍下堡ノ開發ニ充當スルコト

(ハ) 役員ノ人專ニ付テハ滿洲重工業ト北支開發ト協議スルコト

(ニ) 蒙古政府及龍烟鐵道理事ハ滿側ノ供出スル要員ノ全能力ヲ發揮
セシムル如ク現場指導上特ニ留意スルコト

(ホ) 本協定ハ滿洲國政府ト蒙古政府トヲシテ締結セシムルコト

(イ) 前項ハ北支開發トノ間ニハ從來實行シ來リシ所ニシテ當然ノ
コトニ屬シ特記ノ要無キカ如キモ滿側ヨリ理事ヲ出ササルヲ以
テ役員ノ選任、解任等重要人事ニ付テハ滿洲重工業ト豫メ協議
スルコト

(ロ) 蒙古政府ノ龍烟鐵道ニ對スル指導監督權ハ滿側モ了承シアルコ
トトハ思料セララルルモ資本構成^受更ニ際シ指導監督權ノ所在ヲ

(號檢-15 東京 1209)

E-0596



秘

電信寫

大東亞省

關係スル爲一項追加挿入スルコト

(一)蒙古政府ト南京政府ノ微妙ナル關係ニ鑑ミ摺印者ハ北京公使、

武部總務長官(滿洲國)試内總務廳長(蒙古側)及本使トスル

コト

(二)同本件ニ關シテハ擔當官ヲ上京説明セシムル要アリヤ仰回電請フ

支、上海、北京へ転電セリ

(了)

支那公使(のり)
武部總務長官

(原簿—15 東京 1209)

大
次
官

主管
局長
支那事務局長

主管
課長
商工課長

昭和
19年
4月
4日
起案

電信課長

發電係

70

總番第	2122	號
昭和	19年4月11日	前後
件名	龍烟鉄鑛ニ對スル滿洲重工業出資件	
轉電先	宛 北京公使 張家口公使	
暗 平略	合第 四二四 號	
記錄件名	發 大臣	

滿洲事務局長
總務局長

理財課長
總務課長
殖産課長
經濟課長



規格-B5 (東京 3.195)

往電第 三〇九号ニ関シ

龍烟鉄鑛ニ對スル滿洲資本參加ノ提案ハ之ヲ應諾

スルストレ其ノ旨ニ對シテ電報ヲ發シテ各課長ニ連絡セルニ付了知

アリ度ニ 高任電中滿洲出資者滿洲製鉄ハ滿洲重

工業株式會社トス 右ノ處理ノ結果龍烟鉄鑛ノ開

発指導上齟齬ヲ來ササル様配意ニ付 貴本使

軍 貴本使 相持トシテ 貴本使 相持トシテ

用 貴本使 相持トシテ 貴本使 相持トシテ

後 貴本使 相持トシテ 貴本使 相持トシテ

後 貴本使 相持トシテ 貴本使 相持トシテ

規格-B5 (東京 3.195)

秘

電信寫

大東亞省

主管 總務 (支商)

昭和19 五六一六一

略 坂本口 四月十二日一四〇〇發
本省 十三日一六五〇着

青木大東亞大臣

岩崎公便

第二七〇號 (至意)

龍烟鐵礦ニ對スル滿洲製鐵會社出資ニ關スル件

滿鐵經濟部長へ

滿洲重工業カ龍烟鐵礦ニ資本參加スルコトナリ任電第二五九號ヲ以テ大鐵ニ報告致置タルニ付了知アリタシ(了)

商第 89 號
19.4.15
支那事務局

規格-B5 (東東 1.730)

E-0596

二二二
 昭和十九年三月廿五日 一四時 卅分
 支商

在張家口 岩崎公使
 在北 京 鹽澤公使
 青木大東亞大臣

龍烟鐵礦ニ對スル滿洲製鐵會社出資ニ關スル件
 合第三〇九號

蒙疆、北支、滿洲ノ緊密ナル提携ヲ保持シ製鐵増産ニ寄與スル爲
 滿洲國ヨリ龍烟鐵礦ニ對スル滿洲出資ニ付至急回示相成度
 一 出資者ハ滿洲製鐵株式會社トス
 二 蒙古政府、北支開發、滿洲製鐵ノ出資比率カ同等トナル如ク滿
 洲製鐵株式會社カ株式肩替ヲ受ケ出資スルモノトス
 三 實施期日ハ概ネ四月トス

電信寫

(東京三〇九)



九

大臣

19. 7. 18

甲

支商第八〇〇號	決裁	昭十九年七月十日	昭十九年七月十日	昭十九年七月十日	昭十九年七月十日
接受理	施行	昭十九年七月十日	昭十九年七月十日	昭十九年七月十日	昭十九年七月十日
起案	昭十九年七月十日	昭十九年七月十日	昭十九年七月十日	昭十九年七月十日	昭十九年七月十日

張家口大使館(印) 寫開登東京本社

了
官案

文部事務局長 (印) 關正親長 (印) 關正親長 (印)

蒙疆電業株式会社理事長重任ニ関スル件

首題ノ件ニ關シ別紙ニ通申請有之右ハ蒙疆電業株式会社理事長原永
軒今般任期満了ト成リタル處蒙古聯合自治政府ヨリ引継ぎ重任方内
示ラ後ケタルニ依リ重任セントスルモノニシテ別紙ニ通申請ナキト認
入ルヲ以テ申請

通認可相成可然哉

仰高裁

指令 安示

北支那開發株式會社

昭和十九年六月十二日附開發總人〇四第一三號ニ以テ申請
係ル蒙疆電業株式會社理事長重任ニ関スル件認可ス

昭和十九年七月廿九日

大東亞大臣 青木一男

(起案用紙三號ノ三)

規格-B5 (東京3,195)

張大經普通第一八四三號

昭和十九年六月二十三日

在張家口大日本帝國大使館事務所長
特命全權公使 岩崎 民男

大東亞大臣 青木 一男 殿

蒙疆電業株式會社理事長重任ニ關スル認可申請ノ件

首題ノ件ニ關シ別紙ノ如ク北支那開發株式會社ヨリ認可申請有之爰
當ト認メラル、ニ付御認可相成度及副申

添附書類

一、蒙疆電業株式會社理事長重任ニ關スル認可申請ノ件 寫正一部
(六月十三日附開發總人〇四第一三號ノ七)

3703
19.7.7

商第800号
19.7.8
大東亞省支那事務局

1722号
19.7.7
大東亞省支那事務局

興亞院蒙疆連絡部



在張家口大使館經由
開發總人〇四第一三號ノ七
昭和十九年六月十三日

北支那開發株式會社
總裁 津島 壽



大東亞大臣 青木 一男 殿

蒙疆電業株式會社理事長重任ニ關スル認可
申請ノ件

首題ノ件ニ關シ同社ヨリ別紙寫ノ通申請有之審議ノ結果適任ト認メ
承認致度候條御認可賜度此段及申請候也

添附書類

一、當社理事長重任ニ關シ承認申請ノ件
(五月三十日附蒙電認申第一一號)

一部
以上

北支那開發株式會社

蒙電認申第一一號

成紀七三九年五月三十日

蒙疆電業株式會社
理事長 馬 永 魁

北支那開發株式會社
總裁 津 島 壽 一 殿

當社理事長重任ニ關シ承認申請ノ件

當社理事長馬永魁儀成紀七三九年五月二十六日ヲ以テ任期滿了ト相
候處今般蒙古自治邦政府ヨリ引續キ重任方内示相受候ニ付テハ重任方
御承認賜リ度此段及申請候

E-0596

大

臣次 19.7.21

支商第 八一三 號	決裁	昭和十九年七月廿三日	昭和十九年七月廿三日	完結	昭和十九年七月	送發
接受	昭和十九年七月廿三日	施行	昭和十九年七月廿三日	完結	昭和十九年七月	送發
起案	昭和十九年七月廿三日	施行	昭和十九年七月廿三日	完結	昭和十九年七月	送發

支那鐵鋼販賣株式会社定款一部改正ニ関スル件

首題ノ件ニ関シ別紙ノ通 申請有之右ハ北支那鐵鋼販賣

株式会社ノ定款中九條ヲ一部改正セントスルニシテ別紙

支障ナキト認メラレニ依リ認可相成可然哉

仰高裁

了

官案

文書課次

第三課長

總務課長

一九六

指令案

新

北支那南務株式會社

昭和十九年五月十六日附南務物鉄口ニ才二一号一
以テ申請ニ係ル北支那鉄鋼販賣株式會社定款
一部改正ニ関ス件認可ス

昭和十九年七月二十一日

大東亞大臣 青木 一男

(原案用紙三號ノ三)

規格-B5 (東東489)

E-0596



北大經計普通第六三九號

昭和十九年七月三日

在北京大日本帝國大使館事務所長
特命全權公使 塩澤 清

大東亞大臣 青木 一男 殿

北支那鐵鋼販賣株式會社定款一部改正ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ開發物鐵〇三第二一號ノ一ヲ以テ北支那開發株式會社總裁津島壽一ヨリ別添ノ通認可申請アリタルニ付此段進達ス



添附物二部

大使館



在北京大使館事務所經由
開發物鐵〇三第二一號ノ一

昭和十九年六月二十六日

北支那開發株式會社
總裁 津島 壽



大東亞大臣 青木 一男 殿

北支那鐵鋼販賣株式會社定款一部改正ニ
關スル認可申請ノ件

首題ノ件ニ關シ同社ヨリ別紙寫ノ通申請有之審議ノ結果妥當ト認メ承
認致度候條御認可賜度此段及申請候也

添附書類

一、定款一部改正ニ關スル承認申請ノ件

一部

(六月二十日附北支那鐵鋼販賣〇一第一一八號)

北支那開發株式會社



北鐵販庶〇一第一一八號

昭和十九年六月二十日

北支那鐵鋼販賣株式會社
專務取締役 江川忠 式



北支那開發株式會社
總裁 津島壽 一 殿

定款一部改正ニ關スル承認申請ノ件

首題ノ件別紙ノ通改正致度候間御承認賜度此段及申請候也
添附書類

一、定款一部改正案 壹部

改正理由
今般天津並青島ニ支店設置ニ伴ヒ一部改正セントスルモノナリ

定款一部改正案

第五條 「本會社ハ本店ヲ北京市ニ置キ必要ノ地ニ支店ヲ置クコトヲ

得ルヲ

第五條 「本會社ハ本店ヲ北京市ニ支店ヲ天津市及青島市ニ置ク」ニ

改ム

19. 7. 21

昭一九支商第八二五號
 施行 二指今書(東京本社)送
 行 二字(北京分使)

昭和十九年七月十八日
 案 起 昭和十九年七月廿五日
 主 房

昭和十九年七月廿五日
 行 昭和十九年七月廿五日
 課 務 主

商工課長
 主任

昭和十九年七月廿六日

大臣 次官 官
 大 臣 了

北支那開發株式會社、中期借入金借入ニ関スル件

首題 件ノ関シ別紙、通北支那開發株式會社ヨリ認可申請有之

審査スルニ右ハ昭和十九年度事業資金ニ充當為中期借入金トシテ生

保團ヨリ金五千萬圓ノ借入ヲ為サントスルモノトシテ同社資金繰上ニシテ

得ル措置ト被認ヲ以テ左記指令案、通認可相成可クナリ

仰高裁

指令案
 北支那開發株式會社

昭和十九年七月十一日附開發本經口四第三号ニテ以テ申請ニ係ル中期

借入金借入ニ関スル件 認可

B1列起案用紙 富井納

大日本帝國政府

昭和十九年七月十五日

大東亞臣

青木東

青

(原) 昭和十九年七月十五日

E-0596



開發本經〇四第三號ノ二

昭和十九年七月十二日

北支那開發株式會社
總裁 津島壽

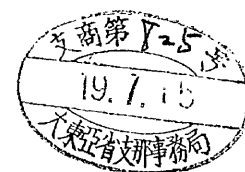
大東亞大臣 青木一男 殿

中期借入金借入認可申請ノ件

弊社昭和十九年度事業資金ニ充當ノ爲別紙借入金條件ニ基キ中期借入金
一 添附書類
二 千萬元也借入致度候條御認可被下度此段及申請候也

一 中期借入金借入條件
二 資金計費

發 通
發 通



北支那開發株式會社

中期借入金借入條件

一 借入總額 金參千萬圓也

二 借入利率 日歩壹圓貳厘五毛

三 借入期限 五箇年

四 借入時期 七月、八月、九月ニ各月壹千萬圓宛

五 借入先 生保團

以上

北支那開發株式會社

摘要	七月		八月		九月	
	額	月内	額	月内	額	月内
前月繰越	三八三八五	三八三八五	一六三〇四	一六三〇四	一〇六一一	一〇六一一
調達資金	四三六〇〇	一七六〇〇	一四〇〇〇	一四〇〇〇	一二〇〇〇	一二〇〇〇
社内債	二〇六〇〇	七六〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	七〇〇〇〇	七〇〇〇〇
社債	一二〇〇〇	六〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇
中期借入	三〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
前借入	五六〇〇〇	六〇〇〇〇	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
口現地借入	二三〇〇〇	一〇〇〇〇	八〇〇〇〇	八〇〇〇〇	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇
預り金	一三〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一三〇〇〇	一三〇〇〇
融資回収	三六〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	三六〇〇〇	三六〇〇〇

昭和十九年度第二四半期資金計畫

一九三〇 (單位 千圓)

北支那開發株式會社

支		計		融		投	
出	業	業	業	業	業	業	業
費	費	費	費	費	費	費	費
四四七六二九	一七九三七四	一三四四四〇	一三三八一五	二二七九七	一九〇八七	二二七九七	一九〇八七
三二七四三	六九八八	六二四〇	一九五一五	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七
三四二五〇	一五九四五〇	九四五〇〇	八八六〇〇	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七
三五〇〇〇	二二五〇〇	二二五〇〇	一二五〇〇	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七
三七三三六	一三九三六	一一二〇〇	一三二〇〇	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七
一四〇〇	四〇〇	五〇〇	五〇〇	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七
二六〇〇〇	二六〇〇〇	二六〇〇〇	二六〇〇〇	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七
七〇〇〇	五〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七
一九八〇	九八〇	九八〇	九八〇	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七
五二五〇	二二二五	一六五〇	二四七五	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七	一九〇八七

E-0596

翌月繰越	計	營業費	借入金利息	債券利息
五九三五	五一六二三四	四五〇〇	五五五七	一六九一八
一六三〇四	二二一八七八	一五〇〇	一九三七	五五五二
一〇六一一	一四五六八三	一五〇〇	二二四五	四三四八
五九三五	一四八六七三	一五〇〇	三三七五	七〇一八



會社別	投資額			
	七月	八月	九月	計
華北電業	四四八八	三八四〇	三四〇	四八四八
蒙東電業	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇
山東電業	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇
金山嶺電業	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇
焦作炭礦	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇
新泰炭礦	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇
大同炭礦	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇
東洋炭礦	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇
華北炭礦	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	三〇〇〇
計	六九八八	六二四〇	一九五一五	三二七四三

投資融資内譯書

(單位 千圓)

會社別	金額			
	七 月	八 月	九 月	總 計
盛 北 交 通	一 七 〇 〇 〇	二 六 七 五 〇	一 五 〇 〇 〇	五 六 七 五 〇
塘 沽 新 港	四 〇 〇 〇 〇	六 五 〇 〇 〇	四 五 〇 〇 〇	一 五 〇 〇 〇
連 雲 港	三 〇 〇 〇 〇	二 〇 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇 〇
青 島 埠 頭	六 五 〇 〇 〇	二 二 〇 〇 〇	二 五 〇 〇 〇	一 一 八 〇 〇 〇
天 津 船 廠	三 〇 〇 〇 〇	三 〇 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇 〇	一 二 〇 〇 〇 〇
華 北 電 線	三 〇 〇 〇 〇	三 〇 〇 〇 〇	九 〇 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇 〇
中 興 炭 礦	三 〇 〇 〇 〇	二 一 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇 〇	一 一 〇 〇 〇 〇
大 汶 口	二 五 〇 〇 〇	二 五 〇 〇 〇	三 〇 〇 〇 〇	八 〇 〇 〇 〇
柳 泉	二 五 〇 〇 〇	二 五 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇 〇
德 縣	四 三 〇 〇 〇	五 〇 〇 〇 〇	一 八 〇 〇 〇	一 一 〇 〇 〇 〇

E-0596



計	北支那鐵業	山西產業	山東	華北鹽業	華北輕金屬	華北重石	華北礬土	開灤炭礦	山東鑛業	山西	井陘炭礦
三四二五五〇	六一五〇〇	一六五〇〇	三〇〇〇〇	七〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇	七五〇〇〇	九〇〇〇〇	九五〇〇〇	一三〇〇〇〇	七〇〇〇〇
一五九四五〇	四三五〇〇	七五〇〇〇	一〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二七五〇〇	三〇〇〇〇	七五〇〇〇	五五〇〇〇	五〇〇〇〇	四八〇〇〇	三五〇〇〇
九四五〇〇	一〇〇〇〇	四五〇〇〇	一〇〇〇〇	二〇〇〇〇	三八五〇〇	一〇〇〇〇		三〇〇〇〇	三二〇〇〇	三九〇〇〇	三五〇〇〇
八八六〇〇	八〇〇〇〇	四五〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三四〇〇〇			一五〇〇〇	一八〇〇〇	五三〇〇〇	一〇〇〇〇

E-0596

計	青島製鐵	三 小型投資	
		會社別	金額
計	料	青島製鐵	125000
		化學	225000
		合計	350000
		七 月	
		八 月	
		九 月	
		内	
		八 月	225000
		九 月	125000

E-0596



投 融 資 合 計	宣 化 計	天 津 製 鐵	井 陘 炭 礦	龍 烟 鐵 礦	山 西 產 業	開 灤 炭 礦	會 社 別 金 額					
							七 月	八 月	九 月	四 月 內		
四 四 七 六 二 九	三 七 三 三 六	一 八 〇 〇	一 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇	八 五 〇 〇	一 五 〇 〇	一 七 九 三 七 四	一 三 四 四 四 〇	一 三 三 八 一 五	三 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇

E-0596



大日本帝國政府

藏外總第壹七六號

昭和十九年七月二十九日

大藏省外資局長 久保

大東亞省支那事務局長
杉原 荒太 殿

北支那開發株式會社ノ中期借入金借入ニ關スル件

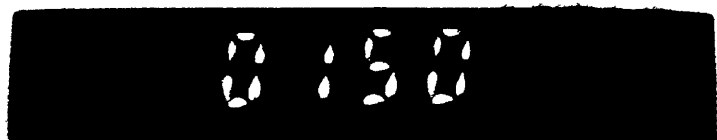
昭和十九年七月二十一日附支商第八二五號ヲ以テ御協議越相成候首

題ノ件當省異存無之

右及回答候也



E-0596



昭和九年七月廿四日

昭一九五番 八三五號 昭一九一七十八

二有添付物
三外資局総務課
長尾廣光

昭和九年七月廿五日
昭和九年七月廿五日

商工課長



理財課長

北支那開發株式會社、中期借入金借入ニ関スル件

年月日

支那事務局長

大藏省外資局長 宛

首題ノ中、同レ別紙字、用北支那開發株式會社ヨリ認可申請

有之當査シタル處存、昭和九年度事業資金ニ充當シ、為中期借入金トシテ

生保團ヨリ金々々千萬元ノ借入ヲ為サントスルモノニシテ、同社ノ資金繰上ニ已ラフ

得サル措置ト被認認可可然モ、ト由イ科セラルルモ本件処理ニ関シ協議

ス



開發本經〇四第三號ノ二

昭和十九年七月十二日

北支那開發株式會社
總裁 津島壽一

大東亞大臣 青木一男 殿

中期借入金借入認可申請ノ件

弊社昭和十九年度事業資金ニ充當ノ爲別紙借入條件ニ基キ中期借入金
參千萬圓也借入致度候條御認可被下度此段及申請候也

添附書類

- 一 中期借入金借入條件 意 通
- 二 資金計書 意 通

北支那開發株式會社

中期借入金借入條件

- 一 借入總額 金參千萬圓也
- 二 借入利率 日步壹錢貳厘五毛
- 三 借入期限 五箇年
- 四 借入ノ時期 七月、八月、九月ニ各月壹千萬圓宛
- 五 借入ノ先 生保團

以上

北支那開發株式會社

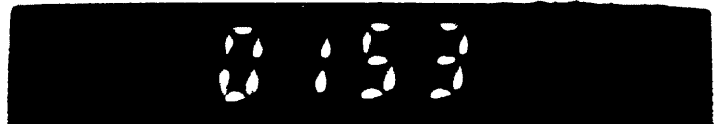
E-0596

0152

摘要	前月繰越					七					八					九				
	前月繰越	調達資金	イ内	社債	期中借	前借	口現地借入	預り金	融資回収	七	八	九	七	八	九	七	八	九		
金額	三八三八五	四三六〇〇	二〇六〇〇	一二〇〇〇	三〇〇〇〇	五六〇〇〇	二三〇〇〇	一三〇〇〇	三六〇〇〇	三八三八五	一七六〇〇	七六〇〇〇	一六三〇四	一四〇〇〇	六〇〇〇〇	一〇六二一	一二〇〇〇	七〇〇〇〇	一〇六二一	
七																				
八																				
九																				

昭和十九年度第二四半期資金計畫

北支那開發株式會社
一九三〇
(單位 千圓)



投資收入	融資收入	計	支	事業費	投資	總計	小型投資	小型融資	土地建物什器	前借金返済	預り金返済	債券差額	債券償還
二、三七九七	一、九〇八七	五、二二一六九	四、四七六二九	三、二七四三	三、四二五五〇	三、五〇〇〇	三、七三三六	一、四〇〇	二、六〇〇〇	七、〇〇〇	一、九八〇	五、二五〇	
二、三七九七	二、三八一八二	一、七九三三四	六、九八八	一、五九四五〇	一、二九三六	四、〇〇〇	二、六〇〇〇	五、〇〇〇	九、九〇	一、一二五			
	一、五六三〇四	一、三四四四〇	六、二四〇	九、四五〇〇	二、二五〇〇	一、一、二〇〇	五、〇〇〇		二、〇〇〇	一、六五〇			
一、九〇八七	一、五四六〇八	一、三三八一五	一、九五一五	八、八六〇〇	一、二、五〇〇	一、三、二〇〇	五、〇〇〇		九、九〇	二、四七五			

E-0596

翌月繰越	計	營業費	借入金利息	債券利息
五九三五	五一六二三四	四五〇〇	五五五七	一六九一八
一六三〇四	二二、八七八	一五〇〇	一九三七	五五五二
一〇六二一	一四五六八三	一五〇〇	一二四五	四三四八
五九三五	一四八六七三	一五〇〇	二、三七五	七〇一八



會計別	投資額				投資融資金額			
	七月	八月	九月	計	七月	八月	九月	計
華北電業	四四八八	四四八八		四四八八				四四八八
山東電化			三四〇	三四〇				三四〇
金山嶺鎮		一〇〇〇		一〇〇〇				一〇〇〇
焦作炭礦		一〇〇〇		一〇〇〇				一〇〇〇
新泰		五〇〇		五〇〇				五〇〇
大同			一〇二〇〇	一〇二〇〇				一〇二〇〇
東洋化學			六三〇〇	六三〇〇				六三〇〇
華北房產			一八七五	一八七五				一八七五
計	六九八八	六二四〇	一九五五	六二四〇	六九八八	六二四〇	一九五五	六二四〇

一 投資

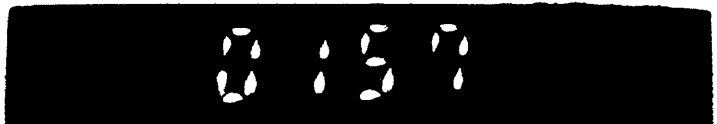
投資融資金額

(單位 千圓)



會社別	金額	七月	八月	九月
華北交通	五六七五〇	二六七五〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇
塘沽新港	一七〇〇〇	六五〇〇	四五〇〇	六〇〇〇
連雲港	四〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
華北運	三〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
青島埠頭	六五〇〇〇	二二〇〇〇	二五〇〇〇	一八〇〇〇
天津船	二〇〇〇〇	八〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇
華北電線	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇
中興炭礦	三五〇〇〇	一六〇〇〇	九〇〇〇	八〇〇〇
大汶口	三〇〇〇〇	二一〇〇〇	六〇〇〇	三〇〇〇
柳泉	二五〇〇〇	二五〇〇〇	一八〇〇〇	二〇〇〇〇
磁縣	四三〇〇〇	五〇〇〇〇	一八〇〇〇	二〇〇〇〇

E-0596



北支那鐵	山西產業	山東	華北業	華北金屬	華北重石	華北鑛土	開深炭鑛業	山西鑛業	山西鑛業	井陘炭鑛
------	------	----	-----	------	------	------	-------	------	------	------

三四三五〇〇	六一五〇〇〇	一六五〇〇〇	三〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	七五〇〇〇〇	九〇〇〇〇〇	九五〇〇〇〇	一三〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇
--------	--------	--------	--------	--------	---------	--------	--------	--------	--------	---------	--------

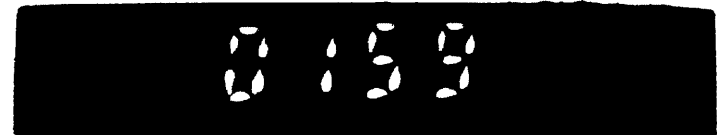
一五九四五〇〇	四三五〇〇〇	七五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二七五〇〇〇	三〇〇〇〇〇	七五〇〇〇〇	五五〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	四八〇〇〇〇	三五〇〇〇〇
---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

九四五〇〇〇	一〇〇〇〇〇	四五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三八五〇〇〇	一〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三二〇〇〇〇	三九〇〇〇〇	二五〇〇〇〇
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

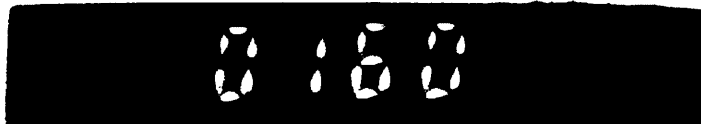
八八六〇〇〇	八〇〇〇〇〇	四五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三四〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇	一八〇〇〇〇	五三〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------



三 小型投資		會社別金	額	七 月	八 月	九 月
青島製鐵	1,250,000				2,250,000	
燃料化學	2,250,000					1,250,000
計	3,500,000				2,250,000	1,250,000



投 融 資 合 計	宣 化 計	天 津 製 鐵	井 陘 炭 礦	福 烟 鐵 礦	山 西 產 業	開 深 炭 礦	會 社 別				
							金	七 月	八 月	九 月	
四 四 七 六 二 九	三 七 三 三 六	一 八 〇 〇	一 〇 〇 〇	一 〇 〇 〇	八 五 〇 〇	一 五 〇 〇	一 七 九 三 七 四	一 三 四 四 〇	一 三 三 八 一 五	額	別 内 譯
							三 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇	六 〇 〇 〇		
							六 一 〇 〇	一 五 〇 〇	一 三 〇 〇		



19. 5. 18

決裁後主務課房

昭九支商 第五五三號 昭和十九年五月十一日 房

一 指令書 送呈本送
付
二 正北支商(送)

昭和十九年七月廿八日
昭和十九年七月廿八日

商工課長

主任

支那支商局長
五

理財課長

大臣 官印

北支那開發株式會社社員給與規程中改正ニ關スル件

首題、件ノ別紙、通北支那開發株式會社ヨリ認可申請有

内閣

之審査致シ同社ノ社員給與規程ハ昭和十七年十月若干ノ改正

ヲ加ヘタル儘今日ニ及ルル其後ニ於テ北支ノ物價騰勢相當急激

現行給與規程下北支在勤社員ノ實績收入ハ相當低下ヲ示シ居ルニ

テ是ニ在テ諸會社ノ社員給與ト比較スルモ低位ニ在リ以テ戰時同社員

ノ最低生活水準確保ト在支諸社ノ社員給與ト均衡保持トニ莫

ヨリ會同之ガ改正ヲ行ハントスルモノニテ要矣ハ

一 外地勤務者ニ對スル給與体系ヲ現行ノ本俸、在勤手當、臨時在勤

B4列起案用紙 富井納

大日本帝國政府

手當、外地特別手當、家族手當、晝食費及住宅費ノ七種
 ヲ晝食費ヲ廢止シテ三種トナシタルト(内地勤務者ニ付テハ現行通り
 本俸、家族手當、晝食手當、及住宅料、四種)
 (一) 在勤手當ニ付テハ現行支給率、給額段階別ニ廢止シテ
 一律トナシタルト
 (四) 臨時在勤手當ニ付テハ現地ニ於テ最低生活費ヲ基礎トシ且各社
 給英ト、均衡及晝食費ノ廢止ヲ考慮シテ現行、約倍額ニ増

(國定規格B5(六×三)用紙)

大日本帝國政府

加スルト共ニ從來前記在勤手當ニ於テ為シタリタル有休族者ニ對スル
 加給ヲ本手當ニ移シタルト
 (一) 外地特別手當ニ付テハ一箇年支給額ヲ月俸ノ九箇月分トナシタルト
 (現行一箇月分)
 (二) 住宅料ニ付テハ在勤地別ヲ廢止シテ一本ナシタルト
 (三) 本改正案ニ依ルハ増ハ別表、通ニシテ概ネ手當ナルモノト被
 認ラ以テ左記指令案依リ認可相成可然哉

(國定規格B5(六×三)用紙)

大日本帝國政府

御高裁

指令案

勅

北支那開發株式會社

昭和十九年四月一日附函發給人秘。三第二号ノ一ニテ申請ニ係ル
社員給與規程中改正ニ関スル申請認可ス

昭和十九年七月二十五日

大東亞大臣 青木一男

(國定規格B5×K35)



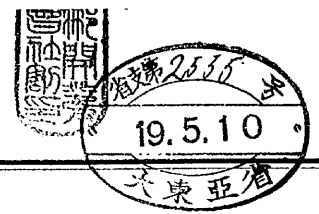
別表

開發現行對改正案月收比較表 (北京)

資格區分	獨身者		同居者	
	現行	改正案	現行	改正案
備員四〇圓	一三六	二三〇	九四	二四〇、六〇
備員六〇	一八四	二七〇	八六	四四〇一九九四〇
職員以上	二三八	三六〇	一二二	五三〇三二九四五
八〇	二八五	四五〇	一六五	六二〇二六三
一〇〇	三八二、五〇	六〇〇	二一七五〇	七八〇三〇七八八
一五〇	四五〇	七五〇	三〇〇	九二〇三七三
二〇〇	六一〇	九五〇	三四〇	一一二〇四〇二
三〇〇	七七〇	一一五〇	三八〇	一、三七〇四二九
四〇〇				
增加額				
增加額				

(東京1920) (日本標準規格 B 5)

大東亞省



東京本社經由

開發總人祕〇三第二一號ノ一

昭和十九年四月一日

北支那開發株式會社
總裁 津島壽

大東亞大臣 青木一男 殿



北支那開發株式會社

社員給與規程中改正ニ關スル件

今般當社社員給與規程中別紙示達案ノ通改正シ四月一日ヨリ施行致度
候條御認可賜度此段及申請候也

添附書類

- 一、社員在勤手當支給規程中改正ニ關スル示達案(達甲第二一〇號)
- 二、社員臨時在勤手當支給規程中改正ニ關スル示達案(達甲第二一一號)

- 一、外地特別手當支給規程中改正ニ關スル示達案（達甲第二一三號）
- 二、社員住宅料支給規程中改正ニ關スル示達案（達甲第二一四號）
- 三、社員晝食費支給規程中改正ニ關スル示達案（達甲第二一二號）

各一部

北支那開發株式會社

達甲第二百十號

昭和十四年三月十六日達甲第十四號社員在勤手當支給規程中左ノ通改
正シ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年 月 日

總 裁

一、第二條中但書ヲ削リ別表ヲ左ノ如ク改ム
別表

在勤地	支給率
北京、天津、青島	月俸ノ一〇割
濟南	〃 一一割
太原、張家口	〃 一四割

一、第三條第二項中「七日以内」ヲ「十四日以内」、「八日目以後」ヲ

「十五日以後」ニ改ム

一、細則及說明第二號ヲ削ル

達甲第二百十一號
 昭和十四年三月十六日達甲第一九號社員臨時在勤手當支給規程中左ノ
 通改正シ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 昭和十九年 月 日 總 裁

一、第二條 臨時在勤手當支給額ハ別表第一ノ通トス但シ北支ニ家族ヲ
 有スル社員ニ對シテハ別表第二ノ區分ニ依リ加給スルモノトス
 別表第一

資格及 給額區分	參事、技師、副參事及職員		備員及 雇員
	月俸 二〇〇圓以上者	月俸 一五〇圓以上者	
單身者 手當月額	三五〇圓	三〇〇圓	一五〇圓
家族持 手當月額	三七五圓	三二五圓	一七五圓
		月俸 一〇〇圓以上者	二〇〇圓
		月俸 一〇〇圓未滿者	二二五圓

別表第二

區分	加給額
家族一人ノ場合	月額 九〇圓
家族二人目ヨリ	四五圓

一、第三條中「在勤手當支給規程」ノ次ニ「社員家族手當支給規程」ヲ
 加フ

達甲第二百十二號

昭和十七年 月

日達甲第

號社員晝食費支給規程中左ノ

通改正シ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年 月 日

總

裁

一 第一條中「月俸二百圓未滿ノ社員」ヲ「日本内地ニ在勤スル社員」

ニ改ム

一 第二條 晝食費支給額ハ出勤日數一日ニ付五拾錢トス

達甲第二百十三號

昭和十七年 月

日達甲第

號社員外地特別手當支給規程中

左ノ通改正シ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年 月 日

總

裁

一 第二條第二項中「月俸ノ六分ノ一」ヲ「月俸ノ四分ノ三」ニ改ム

達甲第二百十四號

昭和十四年三月十六日達甲第十五號社員住宅料支給規程中左ノ通改正
シ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年 月 日

總

裁

一、第二條中定率ヲ左ノ通改ム

資格別	地方別	支給率		最低住宅料	
		家族持	單身者	家族持	單身者
參事技師 副參事及職員	内地	月俸ノ四割	月俸ノ二割	三〇圓	一五圓
	華北及 蒙疆地區	一〇割	五割	七〇圓	四〇圓
職員及傭員	内地	四割	二割	二五圓	一三圓
	華北及 蒙疆地區	一〇割	五割	六〇圓	三五圓

一、第三條第一項中「次條ニ掲クル」ヲ削ル

一、第四條 本規程ニ於テ家族トハ社員家族手當支給規程ニ定ムル家族ヲ謂フ

一、第五條及第七條ヲ削ル

一、第十三條 住宅料支給方ニ關シ本規程ニ定ナキ事項ニ付テハ俸給給料支給規程及社員在勤手當支給規程ヲ準用ス但シ俸給給料支給規程第六條ノ規程ニ限リ之ヲ準用セサルモノトス

一、細則第一號、第四號、第五號、第十號第十五項及第十一號ヲ削ル

現行規程

社員在勤手當支給規程

昭和十四年三月十六日 逓送甲第一四號
施行 一四一三
改正 一七一〇

本則

第一條 社員給與規程第二條ニ依ル
在勤手當ノ支給ニ關シテハ別ニ定
ナキ限リ本規程ニ依ル

第二條 北支（蒙疆地區ヲ含ム以下
同シ）ニ在勤スル日本人社員ニ對
シテハ別表ニ依リ在勤手當ヲ支給
ス但シ北支ニ在勤スル家族ヲ有スル
社員ニシテ月俸三〇〇圓以上者ニ
對シテハ右ノ三割月俸三〇〇圓未

但書

第二條 北支（蒙疆地區ヲ含ム以下
同シ）ニ在勤スル日本人社員ニ對
シテハ別表ニ依リ在勤手當ヲ支給
ス但シ北支ニ在勤スル家族ヲ有スル
社員ニシテ月俸三〇〇圓以上者ニ
對シテハ右ノ三割月俸三〇〇圓未

細則及説明

一、本規程中在勤地トハ辭令ニ依ル
所屬箇所所在地ヲ謂ヒ所屬箇所
所在地以外ノ地ニ別ニ在勤ヲ命
セラレタルトキハ其ノ在勤地ヲ謂フ
二、備員ニ對スル在勤手當ノ計算方
ハ其ノ月支給スヘキ給料額ニ對
シ別表所定率ヲ乘シタルモノトス
三、出張中轉勤ヲ命セラレタルトキ
ハ左ノ日ヲ以テ在勤地出發ノ日
ト看做ス

滿者ニ對シテハ右ノ三・五割雇員
及備員ニ對シテハ右ノ四割ヲ加給
スルモノトス

第三條 在勤手當ハ在勤地到着ノ日
ヨリ出發ノ前日迄其ノ地ノ所定率
ニ依リ之ヲ支給ス

轉勤ヲ命セラレタル者正當ノ理由
ナクシテ轉勤發令ノ日ヨリ七日以
内ニ出發セサルトキハ八日目以後在
勤手當ノ支給ハ之ヲ停止ス但シ別
ニ定ムル所ニ依リ出發延期ヲ承認
セラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 在勤手當支給方ニ關シ本規
程ニ定ナキ事項ニ付テハ俸給給料
支給規程ヲ準用ス

イ、一旦舊在勤地ニ歸還シ新在
勤地ニ赴任スル場合ハ舊在勤
地出發ノ日
ロ、出張地ヨリ新在勤地ニ直接
赴任スル場合ハ出張地出發ノ
日
ハ、其ノ出張地ニ轉勤ヲ命セラ
レ舊在勤地ニ歸還セス其ノ舊
新在勤地ニ於テ勤務スル場合
ハ轉勤發令ノ日ヨリ同日着任ト
シテ取扱フ

別表

張家口	太原	濟南	青島	天津	北京	在動地	
						以上者	未滿者
" 一〇割	" 九割	" 七割		月俸ノ六割		二〇〇圓	二〇〇圓
" 一二五割	" 一〇五割	" 八五割		月俸ノ七・五割		未滿者	未滿者
" 一二割	" 一一割	" 九割		月俸ノ八割		未滿者	一五〇圓
" 一二五割	" 一一五割	" 九五割		月俸ノ八・五割		未滿者	一〇〇圓
" 一三割	" 一二割	" 一〇割		月俸ノ九割		雇員	雇員
" 一三割	" 一二割	" 一〇割		月俸ノ九割		備員	備員

社員臨時在勤手当支給規程

第一條 北支（蒙疆地區ヲ含ム以下同シ）在勤日本人社員ニ對シテハ本規程ニ依リ臨時在勤手当ヲ支給ス

第二條 臨時在勤手当支給額ハ別表ノ通トス但シ北支ニ主タル家族ヲ有スル社員ニシテ月俸三〇〇圓以上者ニ對シテハ右ノ三割月俸三〇〇圓未滿者ニ對シテハ右ノ三・五割雇員及備員ニ對シテハ四割ヲ加給スルモノトス

別	資格	參事、技師、職員			
		給與區分	二〇〇圓以上者	二〇〇圓未滿者	一五〇圓未滿者
表	手當月額	一三〇圓	一一五圓	一〇〇圓	八五圓
					六五圓
					五五圓
					雇員
					備員

第三條 臨時在勤手当支給方ニ關シテハ在勤手当支給規程ヲ準用スルモノトス

社員晝食費支給規程

施行 昭和一七・一〇・一

第一條 月俸二〇〇圓未満ノ社員ニ對シテハ本規程ニ依リ晝食費ヲ支給ス

第二條 晝食費支給額ハ内地月額十圓外地月額五圓トス

第三條 晝食費支給ニ關シ本規程ニ定ナキ事項ニ付テハ俸給給付支給規程ヲ準用ス

外地特別手當支給規程

施行 昭和一七・一〇・一

本 則

細則及説明

第一條 社員給與規程第二條ニ定ム

ル外地特別手當ノ支給ニ關シテハ

別ニ定ナキ限り本規程ニ依ル

第二條 外地ニ在勤スル日本人社員

ニ對シテハ外地特別手當ヲ支給ス

外地特別手當ハ一月ニ付月俸ノ六

分ノ一ノ割合ヲ以テ算出シタル金

額トス

但シ社員ノ缺勤日數ニ應シ減額ス

ルヲ妨ゲス

一、外地トハ北支（蒙疆地區）ヲ含

ムヲ謂フ

E-0596

致公

員 備			員 雇			員 職 及 師 技 事 參			資 格 別	
張家口	天津	内地	張家口	天津	内地	張家口	天津	内地	地方別	資格別
同五割	同六割	同四割	同五割	同六割	同四割	同五割	同六割	同四割	本俸ノ 四割ノ	家族持
同二割	同三割	同二割	同二割	同三割	同二割	同二割	同三割	同二割	本俸ノ 二割ノ	單身者
三五圓	三〇圓	二〇圓	三〇圓	三七圓	二五圓	三七圓	四五圓	二五圓	三〇圓	家族持
一三圓	一五圓	一〇圓	一五圓	二〇圓	一三圓	二〇圓	二五圓	一五圓	一五圓	單身者
										最低住宅料

ノ 率 ヲ 決 定 ス

第一條 日本人社員ニシテ社宅ノ貸與ヲ受ケサル者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ住宅料ヲ支給ス

第二條 住宅料ハ左ノ定率ニ依リ之ヲ支給ス

本 則

社員住宅料支給規程

施行 改正

昭和一四 三二六 達甲第一五號
昭和一四 一三一 一
昭和一五 三 達甲第五〇號
昭和一六 五 達甲第七七號
昭和一七 一〇 一

細 則

一、日給者ノ本俸額トハ其ノ日給額ノ三十日分ヲ謂フ

二、本條ニ列記シタル以外ノ地ニ付住宅料ヲ支給スル必要生シタルトキハ總裁室人事課長ニ於テ其

第三條 社員次條ニ掲クル家族ト同居スルトキハ家族持住宅料ヲ支給ス
前項以外ノ場合ニハ單身住宅料ヲ支給ス

第四條 本規程ニ於テ家族トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
一 配偶者但シ婦人社員ノ夫ヲ除ク
二 同一戸籍内ニ在ル三親等内ノ親族ニシテ本人ニ於テ扶養ノ要アリ且現ニ扶養ヲ爲シツツ

三 夫婦ノ雙方又ハ同一戸籍ニ在リ且同居スル親子兄弟姉妹ノ二人以上同時ニ社員タル場合ニ在リテハ其ノ給額最モ高キ者ニ對シ家族持住宅料ヲ支給シ他ノ者ニ對シテハ住宅料ハ支給セサルモノトス

四 内縁ノ妻ハ特別ノ事情アル場合ニ限り總裁室人事課長ニ於テ家族ト認定スルコトヲ得

五 本條第一號但書及第二號但書ニ該ル場合ト雖特別ノ事情アリト認めタルトキハ總裁室人事課長

アル者但シ滿二十歳以上五十五歳未滿ノ者及分割扶養ヲ受クル者ヲ除ク
三 前二號ニ掲ケタル者ノ外總裁室人事課長ニ於テ特ニ其ノ必要アリト認めタル者

ハ之ヲ家族ト認定スルコトヲ得
六 細則四、五及本則第三號ニ依リ家族ノ認定ヲ受ケントスルモノハ家族認定願ヲ總裁室人事課長ニ提出スヘシ

第五條 住宅料ノ支給開始事由並其ノ起算日左ノ通トス
一 採用、轉入ノ場合 著任日ヨリ
二 非役被免ノ場合 發命日ヨリ
三 社宅ヨリ社宅外ニ轉居シタル場合 轉居ノ翌日ヨリ
四 獨身社員九十日以上在勤地ニ

在ラサル爲住宅料ノ支給ヲ停止セラレ居リタル者在勤地ニ復歸シタル場合 復歸ノ當日ヨリ

第六條 支給ヲ受クヘキ住宅料ノ額ニ變更ヲ生スル場合ノ支給方ハ左ニ依ル

一、本俸ニ變更アリタルトキハ本俸ノ變更ノ發令ノ前日迄ハ舊ニ依リ發令ノ當日以後ハ新ニ依ル

二、單身者カ家族持トナリタルトキハ家族發生ノ當日ヨリ家族持住宅料ヲ支給ス

三、家族持社員本條第四號ニ定メタル以外ノ事由ニ依リ單身者トナリタルトキハ單身者トナリタル後三十一日ヨリ單身住宅料ヲ支給ス

四、家族死亡ノ爲單身者トナリタルトキハ單身者トナリタル後五十一日ヨリ單身住宅料ヲ支給ス

〇第七條 左ノ事由發生シタルトキ

七、單身者家族持トナリタルトキハ事實發生ノ日ヨリ三十日以内ニ戶籍謄本ヲ添附シ届出ツヘシ前

項ノ届出期間ヲ經過シテ届出テタル者ニ對シテハ届出ノ日ヨリ家族持住宅料ヲ支給ス
八、本號ノ事由發生シタルトキハ七日以内ニ總裁室人專課長ニ届出ツヘシ
前項ノ届出期間ヲ經過シテ届出テタル者ニ對シテハ事由發生ノ翌日ヨリ單身住宅料ヲ支給ス
九、細則七八本號ノ場合ニ之ヲ準用ス

ハ夫々所定ノ日以後住宅料ヲ支給セサルモノトス

一、社宅ニ入リタルトキ 入舎ノ日ヨリ

二、退職シタルトキ 發令ノ翌日ヨリ

三、死亡シタルトキ 死亡ノ翌日ヨリ

四、非役ヲ命セラレタルトキ 發令ノ當日ヨリ

五、轉勤シタルトキ 出發ノ翌日ヨリ

但シ其ノ出發カ發令日ヨリ七日以後トナリタルトキハ八日目ヨリ支給ヲ停止ス

六、獨身社員九十日以上在勤地ニ在ラサルトキ九十一日目ヨリ

○十、社員非役規程第一條第一號及第三號ニ依ル非役者ニハ事情ニヨリ六十日以内住宅料ヲ支給ス

○但シ有家族者ニ對シテハ六十一日目ヨリ非役被免迄内地家族持住宅料ヲ支給スルコトヲ得

○十一、業務ノ都合、疾病其ノ他總裁室人事課長ニ於テ必要又ハ已ムヲ得サル事由アリト認メタルトキハ本號ノ停止起算日ハ之ヲ延期スルコトヲ得但シ發令後三十日ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條 業務ノ必要ニ基キ社員ヲ社宅以外ノ會社建物又ハ船舶等ニ居住セシメタル場合ニ於テ當該建物又ハ船舶等カ貸與セラレヘキ社宅ニ比シ著シク粗悪ナルモノト認メタルトキハ第二條ニ定メタル額以内ノ特任住宅料ヲ支給ス但シ出張ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 社員家族ト別居シタル場合ニ於テ總裁室人事課長之ヲ承認シタルトキハ別居住宅料ヲ支給ス

前項ノ承認ヲ受ゲントスルトキ

十二、家族持社員社宅以外ノ會社建物又ハ船舶等ニ單身居住セシメラレ其ノ家族ニ對シテハ別ニ社宅ノ貸與又ハ住宅料ノ支給ヲ受クルトキハ本條ノ認定ハ獨身社宅ノ標準ニ依ル

十三、本條第二項ノ場合ニ於テ所定期間ヲ經過シテ別居承認願ヲ提出シタルトキハ其ノ承認ハ提出シタル日以後ニ付之ヲ行フモノトス

ハ事實發生ノ日ヨリ三十日以内ニ別居承認願(様式第一號)ヲ總裁室人事課長ニ提出スヘシ

第十條 別居承認事由左ノ通トス

- 一、直系卑屬ノ中等程度以下ノ學校教育ノ爲家族カ任地以外ノ地ニ別居スルトキ
- 二、本人又ハ家族ノ療養ノ爲家族ト別居スルトキ
- 三、任地カ僻遠ノ地ナル爲又ハ任地住宅ナキ爲家族カ別居スルトキ

十四、別居承認ニハ期間ヲ附ス前項ノ期間ヲ經過スルモ承認ノ事由已マサル爲又ハ新ナル事由發生シタル爲猶引續キ別居承認ヲ受ケントスルトキハ更メテ別居承認願ヲ提出スヘシ

十五、本條第二號ノ場合ニハ別居承認願ニ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

四、其ノ他特別ノ事情アリト認めタルトキ

第十一條 別居住宅料ハ本人ニ付テハ其ノ在勤地ニ於ケル單身住宅料ヲ支給シ家族ニ付テハ家族ノ居住地ニ於ケル家族持住宅料ヲ支給ス

第十二條 故意又ハ過失ニ因リテ不當ニ住宅料ヲ請求シ或ハ支給ヲ受ゲタル者ニ對シテハ總裁室人事課長ハ既往ノ住宅料ノ一部

十六、別居住宅料ト雖俸給、給料ヲ支給スル箇所ニ於テ一括支給スルモノトス
十七、家族カ數箇所ニ分散別居スル場合ハ總裁室人事課長ニ於テ主タル家族ト認めル者ノ居住地ニ付定メタル率ヲ適用ス

又ハ全部ノ返納ヲ命シ更ニ相當
期間社宅ノ貸與又ハ住宅料ノ支
給ヲ停止スルコトヲ得

第三條

社員給與改正要綱

(昭和一九四一
北支那開發會社)

一、改正主旨

戰局ハ愈決戰段階ニ入り戰況益苛烈悽愴ヲ極メツアルノ秋大東亞
ノ兵站基地タル華北蒙疆地區ノ軍需資源開發ト之カ生産ノ增強ヲ圖
ルコト今日ヨリ急ナルハナシ、カカル秋之カ開發及生産ノ任ニ當ル
開發會社事業ノ急速ナル進展ヲ圖ルト共ニ之カ適切ナル指導調整ヲ
爲スハ當社ノ最重要使命ナリ
カカル重要使命ノ達成ニハ先ツ當社社員ヲシテ眞ニ後顧ノ憂ナク社
業ニ專念セシメ能率ノ増進ヲ圖ルコト目下ノ急務ナリ然ルニ近時北
支ニ於ケル物價ハ異狀ナル高騰ヲ示シ之ニ反シ當社ハ昭和十七年十
月若干ノ改正ヲ實施シタル儘今日ニ到リタル爲當社北支在勤社員ノ
實質收入ハ眞ニ驚クヘキ低下ヲ示シ特ニ戰時ニ於ケル最低生活ノ水
準ニスラ及ハサルノ現狀ニシテ之カ爲社員ノ經濟的困難著シク其ノ

生活ノ疲弊見ルニ忍ヒサルモノアリ更ニ現行社員給與ヲ見ルニ在支諸會社ノ最低位ニアリ其ノ不均衡甚ク會社運營上種々ノ支障ヲ招來シツツアリ故ニ速カニカカル切迫セル現狀ヲ打開シ當社ノ重要使命達成ニ遺憾ナキヲ期スルノ要アリ依テ社員給與ニ再檢討ヲ加入特ニ

(一) 社員ノ生計困窮ノ緩和即戰時最低生活水準ノ確保

(二) 在支諸會社社員給與トノ均衡ノ保持

ニ重點ヲ置キ所要ノ改正ヲ爲シ社員ノ日々蒙リツツアル生活ノ脅威ヲ除却シ社員ヲシテ安ンシテ社業ニ専念セシメ以テ社業ノ健全ナル進展ト相俟チ銃後生産ノ増強ニ資セムトス
尙内地在勤者ニ對スル給與ニ付テハ最少限度ノ調整ニ止ムル如ク措置セムトス

二、改正案ノ概要

(一) 給與ノ體系

イ 外地		ロ 内地 (現行通)	
改正案	現行	改正案	現行
1 本俸	1 本俸	1 本俸	1 本俸
2 在勤手当	2 在勤手当	2 家族手当	2 家族手当
3 臨時在勤手当	3 臨時在勤手当	3 晝食費	3 晝食費
4 外地特別手当	4 外地特別手当	4 住宅料	4 住宅料
5 家族手当	5 家族手当		
6 住宅料	6 晝食費		
	7 住宅料		

(二) 改正要點說明
イ 外地在勤者分
1 在勤手當

現行在勤手當支給率ハ給額段階別ニ區分シアルモ之ニ依リ生
スル不合理ヲ除ク爲之ヲ一律ト爲シ且現行各社ノ實績及滿洲
國ニ於ケル支給率トノ均衡ヲ考慮若干ノ修正ヲ加ヘ左ノ通
セリ
尙關係會社トノ均衡ヲ考慮現行在勤手當ニ於ケル有家族者ニ
對スル加給ヲ廢止シ臨時在勤手當ノ加給ニ於テ考慮スルコト
トシタリ

區分	改正案		現行				雇員及備員
	支給率	在勤手當	參事	技師	副參事	及職員	
北京天津	月俸ノ一〇割	月俸ノ六割	月俸二〇〇圓以上者	月俸一五〇圓以上者	月俸一〇〇圓以上者	月俸一〇〇圓未滿者	月俸ノ九割
青島	"	"	"	"	"	"	"
濟南	"	"	七〇	八・五〇	九〇	九・五〇	一〇〇
太原	"	"	九〇	一〇・五〇	一一・五〇	一二・五〇	一二
張家口	"	"	一〇〇	一一・五〇	一二・五〇	一三・五〇	一三

改正案
華北及蒙疆地區ニ
家族ヲ有スル社員
ニ對スル加給ナシ

現行在勤手當ニ於ケル加給額
華北及蒙疆地區ニ主タル家族ヲ有スル社員
ニ對シテ左ノ區分ニ依リ加給ス
月俸三〇〇圓以上者 右ノ三割
" 三〇〇圓未滿者 " 三・五割
雇員及備員 " 四割

臨時在勤手當
 現地ニ於ケル最低生活費ヲ基礎トシ且各社給與トノ均衡ヲ考
 慮本手當支給額ヲ左ノ通改正セムトス

資格及給額別	改正案		現行
	單身者	家族持	
參事技師副參事及 職員月俸 二〇〇圓以上者	月額 三五〇圓	三七〇圓	一三〇圓
職員 " 一五〇圓以上者	" 三〇〇圓	三二五圓	一一五圓
" 一〇〇圓	" 二五〇圓	二七五圓	一〇〇圓
" 一〇〇未滿者	" 二〇〇圓	二二五圓	八五圓
雇員	" 一五〇圓	一七五圓	六五圓
備員			五五圓

改正案臨時在勤手當ニ於ケル加給額

現行臨時在勤手當ニ於ケル加給額

北支(蒙疆地區ヲ含ム)ニ家族ヲ有スル
 社員ニ對シテハ左ノ區分ニ依リ加給ス

華北及蒙疆地區ニ主タル家族ヲ有ス
 ル社員ニ對シテハ左ノ區分ニ依リ加
 給ス

家族一人ノ場合 加給額月九〇圓

月俸三〇〇圓以上者 右ノ三割

" 三〇〇圓未滿者 " 三・五割

家族二人目ヨリ一人ニ付月四五圓

職員及備員 四割

備考

本手當ニ於テ加給ヲ爲ス家族トハ家族手當支給規程ニ於テ
 定メタル者ヲ謂フ
 扶養家族ノ發生ニ依ル生活費ノ増加額(例)

世帯注 ノ年齢	扶養家族數	最低生活費	増加額	備考
三四歳	獨身	二一一圓		

二五歳	妻	四〇〇圓	一八九圓	結婚ニ依ル増加額
二七歳	子(二歳)一人	四六三圓	六三圓	第一子出産ニ依ル増加額

3 外地特別手当

現行ハ外地在勤社員ニ對シ一箇年ニ付月俸ノ二箇月分ヲ支給
 (實質ハ外地在勤社員ノ賞與ノ一部ナリ一註参照)シ居ルモ
 内地在勤社員ト外地在勤社員トノ均衡及關係會社社員賞與ト
 ノ均衡ヲ圖ルノ見地ヨリ本手当支給額ヲ一箇年ニ付月俸ノ九
 箇月分支給ノコトニ改ム

註一從來當社社員ノ賞與基金ハ外地在勤社員分月俸ノ一
 箇月分内地在勤社員分九箇月爲リシヲ昭和十七年十月給
 與改正ニ當リ内地共月俸ノ九箇月分トシテ外地在勤社員
 ニ對シテハ外地特別手当トシテ内地ノ差一箇年ニ付月
 俸ノ二箇月分ヲ支給ノコトニ改メタリ

4 家族手当

現行通(扶養家族一人ニ付五圓ヲ支給)トス

5 晝食手当

外地在勤者ニ對スル晝食費ハ臨時在勤手当ニ於テ考慮スルコ
 トトシ之ヲ廢止ス

6 住宅料

外地在勤社員ノ住宅料ヲ左ノ如ク改ム

資格別	區分	在勤地	支給率		最低額	
			家族持	單身者	家族持	單身者
參事技師 副參事及 職員	現行	北京天津 青島濟南	月俸ノ六割	月俸ノ三割	四五圓	二五圓
		太原 張家口	〃 五割	〃 二・五割	三七圓	二〇圓
改正案		華北及 蒙疆	〃 一〇割	〃 五割	七〇圓	四〇圓

備員及 現行	現行	
	張木 家口原	青北京 島島天 濟濟南 津津
改正案	及華 蒙疆北	月俸ノ六割
"	一〇割	月俸ノ三割
"	五割	備員三〇七圓
"	五割	備員二〇圓
"	六〇圓	備員一五〇圓
"	三五圓	備員一五〇圓

口内 地

1 家族手當

現行通 (扶養家族一人ニ付五圓ヲ支給) トス

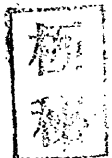
2 晝食費

現行八月俸二〇〇圓未滿者ニ對シ月額一〇圓支給シ居ルモ給額

ニ依ル制限ヲ撤廢シ出勤日數一日ニ付五〇錢支給ノコトニ改ム

3 住宅料

現行通 (單身者月俸ノ二割家族持月俸ノ四割) トス



關係會社日人社員給與調整規準 (昭和一九二二) 北支那開發會社

第一 給與ノ種類

社員ノ給與ヲ分チテ左ノ各號ニ掲クル給與トス

- 一 基本給料 (名稱ノ如何ヲ問ハス關係會社カ社員ニ對シ一定ノ金額ニ依リ定期ニ支給スル給與ノ中基本トナルヘキ固定給ヲ謂フ)
- 二 在勤手当、臨時手当 (名稱ノ如何ヲ問ハス關係會社カ社員ニ對シ當該在勤地ノ生活條件ニ應シ定期ニ支給スル給與ヲ謂フ)
- 三 住宅手当 (名稱ノ如何ヲ問ハス關係會社カ社員ニ對シ無償ニテ貸與スル住居及之ニ附隨スル施設又ハ其ノ住宅費ニ充ツル爲定期ニ支給スル金錢給與ヲ謂フ)
- 四 家族手当 (名稱ノ如何ヲ問ハス關係會社カ扶養家族ヲ有スル社員ニ對シ其ノ家族ノ状態ニ應シ定期ニ支給スル給與ヲ謂フ)
- 五 雜手当 (前四號ニ掲クル手当ヲ除クノ外關係會社カ社員ニ對シ支給スル給與ヲ謂フ)
- 六 支給スル給與ヲ謂フ)

- 六 賞與（前各號ニ掲クル給與ヲ除クノ外關係會社カ社員ニ對シ其ノ一定期間中ニ於ケル勤勞ニ酬ユル爲支給スル給與ヲ謂フ）
- 七 退職金（關係會社カ退職シタル社員ニ對シ支給スル給與又ハ之ニ相當スル金額ニシテ在職中ノ社員ニ對シ前拂スルモノヲ謂フ）
- 八 臨時給與（前各號ニ掲クル給與ヲ除クノ外關係會社カ社員ノ全部又ハ大部分ニ對シ臨時ニ支給スル給與ヲ謂フ）

第二 給與ノ規準

一 基本給料

初任基本給料
關係會社社員ノ初任基本給料ニ付テハ左ニ掲クル金額ヲ基準トシテ之ヲ調整スルモノトス

區	分	標準	基本給料	
			月額	卒業後一年以上ノ経験者ノ月額
大學令ニ依ル大學卒業又ハ之ニ準スル學歷ヲ有スル者	技術者		八五圓	五五圓
	事務者		七五〃	五〃

(一) 左ノ各號ニ備ケル場合ニ於テハ各其ノ定ムル金額トス
 特別ノ經歷又ハ技能ヲハ特別ノ學歷ヲ有スル者ニ付其ノ初任
 基本給料ノ準則ニ關シ會社ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ金額

國民學校令ニ依ル國民學校卒業者又ハ之ニ準スル學歷ヲ有スル者	中等學校令ニ依ル乙種實業學校卒業又ハ之ニ準スル學歷ヲ有スル者	中等學校令ニ依ル甲種實業學校卒業又ハ之ニ準スル學歷ヲ有スル者	中等學校令ニ依ル中學校卒業者又ハ之ニ準スル學歷ヲ有スル者	專門學校令ニ依ル三年制專門學校卒業又ハ之ニ準スル學歷ヲ有スル者	專門學校令ニ依ル四年制專門學校卒業又ハ之ニ準スル學歷ヲ有スル者
	技術者 事務者	技術者 事務者	技術者 事務者	技術者 事務者	技術者 事務者
三一	三三 六八	四二	四二 四五	六七 〇〇	六七 五五
一五	二二	三三	三三	四四	四四

(二) 轉職者ノ初任基本給料ニ付テハ(イ)右初任基本給料基準額(ロ)前職ノ基本給料(ハ)當該關係會社ノ社員中學歴卒業年次別ニ於テ當該轉職者ト同等ノ者ノ基本給料相當額中何レカ多キ金額

昇給

(一) 關係會社社員ノ基本給料月額ノ定時昇給ニ付テハ當該定期昇給期ニ於ケル社員中當該定期昇給期ニ於ケル社員中當該定期昇給直前ニ於ケル基本給料月額百五十圓ヲ超ユル社員ノ基本給料月額ニ年一回ノ定期昇給ニ在リテハ百分ノ七、年二回ノ定期昇給ニ在リテハ百分ノ三・五ヲ基本給料月額百五十圓以下ノ社員ノ基本給料月額ニ年一回ノ定期昇給ニ在リテハ百分ノ十、年二回ノ定期昇給ニ在リテハ百分ノ五各乘シテ得タル金額ノ合計金額(昇給基金)ノ範圍ニ於テ之ヲ實施セシムルモノトス

年二回定期昇給ヲ爲ス關係會社ノ第二回ノ定期昇給期ニ於ケ

ル社員中第一回ノ定期昇給期以後ニ於テ昇給シタル社員ニ付
 テハ第一回ノ定期昇給直前ニ於ケル基本給料月額ヲ以テ第二
 回ノ定期昇給直前ニ於ケル基本給料月額ト看做ス
 (二) 關係會社社員ノ基本給料月額ノ臨時昇給ニ付テハ本會社ノ承
 認ヲ經テ之ヲ實施セシムルコトヲ得ルモノトス

三 在勤手當

關係會社社員ノ在勤手當ニ付テハ其ノ支給額カ左ニ掲クル割合ヲ
 超エサル如ク調整スルモノトス

在 勤 地	支 給 率
北京、天津、青島	月俸ノ 一〇割
濟南、通州	一〇〃
塘沽、營山、山海關	一二〃
保定、滄縣、德縣、張店、坊子 濰縣、博山	一三〃

張家口、太原、石門、正定、大 汶口、兗州、古北口、密雲	月俸ノ 一四割
大同、宣化、開封、徐州、順德 磁縣、彰德、新鄉、連雲、柳泉	一五〃
厚和、焦作、臨汾、汾陽	一七〃
寧武、運城、包頭	一七〃
風陵渡口	一八〃

備考

- 一、在勤地ハ鐵道沿線郡邑トス
- 二、本表ニ掲クル地域以外ノ在勤手當支給率ニ付テハ最寄指定地
及各社間ニ於ケル均衡ヲ勘案シ之ヲ決定セシムルモノトス
- 三、臨時手當
關係會社社員ノ臨時手當ニ付テハ左ニ掲クル金額ヲ超エサル如ク
調整スルモノトス

職員以上 月基本給額	資格給額別	支給額
二〇〇圓以上者	一五〇圓以上者	月額 三五〇圓
一〇〇圓以上者	一〇〇圓以上者	二五〇圓
一〇〇圓未満者	一〇〇圓未満者	一五〇圓

備考

一 家族ヲ有スル社員ニ對シテハ左ノ金額ヲ加給スルコトヲ得ル

モノトス

華北及蒙疆地區ニ家族ヲ有スル者

月額 七〇圓

日本内地ニ家族ヲ有スル者

月額 二〇圓

二 前號ノ家族トハ家族手當支給上ノ家族ニシテ當該關係會社ニ於テ承認シタル者ヲ謂フ



四 住宅手當

イ 關係會社社員ニ對シテハ會社所有住宅ヲ無償貸與シ又ハ會社所有以外ノ住宅ヲ會社ニ於テ貸借ノ上貸與セシムルモノトス

ロ 關係會社社員ニシテ住宅ノ貸與ヲ必要トセサル者ニ對スル住宅手當ニ付テハ左ノ割合ヲ超エサル如ク調整スルモノトス

資格別	支給率		最低額	
	有家族者	單身者	有家族者	單身者
職員以上	月俸ノ一〇割	月俸ノ五割	七〇圓	四〇圓
雇員及傭員	月俸ノ一〇割	月俸ノ五割	六〇圓	三五圓

五 家族手當

イ 關係會社社員ノ家族手當ニ付テハ左ノ金額ヲ超エサル如ク調整スルモノトス

華北及蒙疆地區居住ノ家族一人ニ付 月額 五〇圓

日本内地居住ノ家族一人ニ付 月額 一〇圓

(二) 家族手當支給上ノ家族トハ左ニ掲クル者ニシテ主トシテ當該社員ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ヲ謂フ

一 配偶者（届出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ルモノヲ含ム）

二 満六十歳以上ノ直係尊屬ニシテ本人ト同一戸籍内ニ在ル者

三 満十八歳未滿ノ直係卑屬及弟妹ニシテ本人ト同一戸籍内ニ在ル者

四 不具廢疾者ニシテ本人ト同一戸籍内ニ在ル者

五 前各號ニ掲クル者ヲ除クノ外 關係會社ニ於テ特ニ認めタル者

六 雑手當

イ 一般雑手當（名簿ノ如何ヲ問ハス 關係會社カ社員ニ對シ定期ニ支給スル雑手當ヲ謂フ）

ロ 特殊雑手當（名簿ノ如何ヲ問ハス 關係會社カ社員ニ對シ職務ニ關スル一定ノ事實其ノ他特殊事情アル場合ニ支給スル雑手當



ヲ謂フ

- 1 追加勤務手当
- 2 特殊業務手当
- 3 職務手当
- 4 奨励手当
- 5 被服
- 6 被服手当
- 7 非役者、退職者、入隊者等ニ對スル手当
- 8 職務傷病死亡手当
- 9 特定地區手当
- 10 其ノ他前各號ニ準スル手当

七 賞 與

關係會社社員ノ毎事業年度賞與ニ付テハ其ノ支給總額カ當該賞與支給期間中ニ支給シタル社員ノ基本給料及在勤手当合計額ノ四分

ノ三（賞與基金）ヲ超ヘサル如ク調整スルモノトス
八 退 職 金

別ニ定ムルトコロニ依リ調整スルモノトス
九 臨時給與（基準ナシ）

一〇 内地在勤社員ニ對スル臨時手當、住宅手當、家族手當及雜手當
ニ付テハ他會社ノ均衡其ノ他ノ事情ヲ考慮適正ト認メラルモノ
ニ付承認ヲ爲スモノトス

